

Ⅱ 平成27年(2015年)鉦工業指数の動向

1 概 況

(1) 生産動向 — 生産指数は低下 —

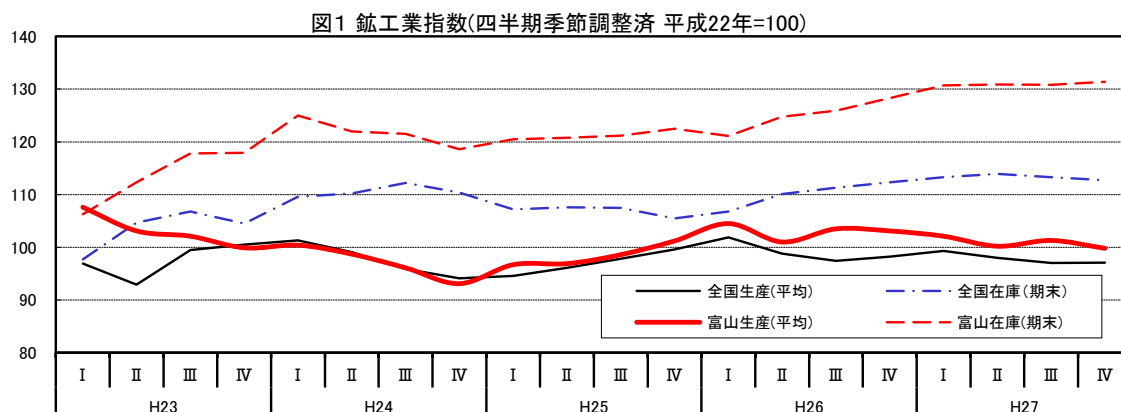
平成27年の生産指数(原指数)は、前年比▲2.1%の100.8となり、3年ぶりに低下した(表1、図1、統計表第1表)。

表1 鋳工業生産指数の推移

平成22年=100

	富 山			全 国		
	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成23年	103.0	3.0	-	97.2	▲2.8	-
24年	97.1	▲5.7	-	97.8	0.6	-
25年	98.4	1.3	-	97.0	▲0.8	-
26年	103.0	4.7	-	99.0	2.1	-
27年	100.8	▲2.1	-	97.8	▲1.2	-
平成27年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	102.1	-	▲1.0	99.3	-	1.1
II 期	100.2	-	▲1.9	98.0	-	▲1.3
III 期	101.3	-	1.1	97.0	-	▲1.0
IV 期	99.8	-	▲1.5	97.1	-	0.1

注: 全国指数は「経済産業省 鋳工業指数」から転載



平成27年の生産の動きを四半期別にみると、前期比(季節調整済指数)は、I期▲1.0%、II期▲1.9%と平成26年IV期以降3期連続で低下し、III期1.1%と上昇したが、IV期▲1.5%と再び低下した。

また、前年同期比(原指数)は、I期▲2.1%、II期▲2.2%、III期▲1.9%、IV期▲2.3%と4期連続で前年を下回った(表1、図1、図2、図3、統計表第3表)。

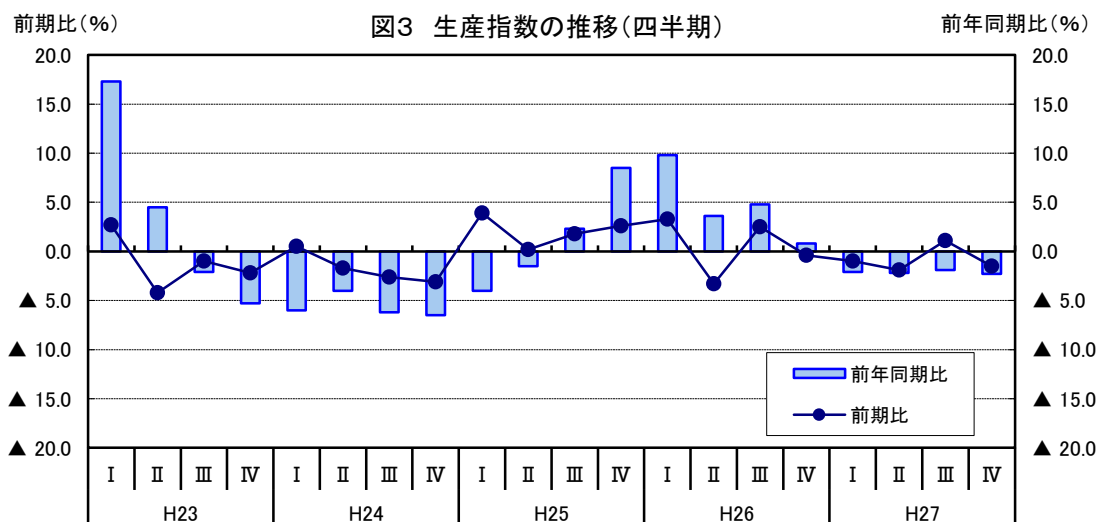
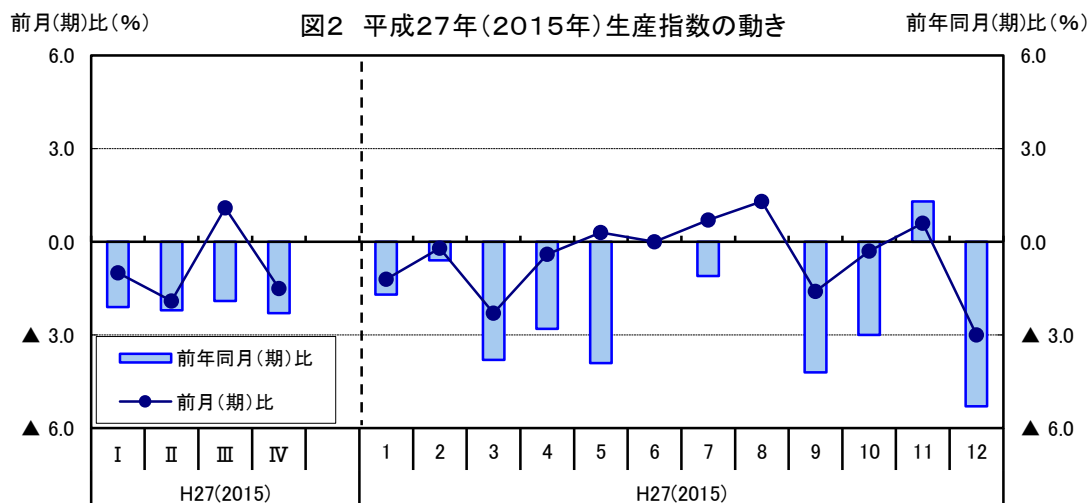


表2 生産指数(年平均)

平成22年=100

	富山県	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考)
	ウェイト	26年	27年			ウェイト
鉱工業	10000.0	103.0	100.8	▲ 2.1	▲ 2.14	10000.0
製造工業	10000.0	103.0	100.8	▲ 2.1	▲ 2.14	9978.9
鉄鋼業	369.9	93.2	88.4	▲ 5.2	▲ 0.17	391.1
非鉄金属工業	795.6	103.8	98.8	▲ 4.8	▲ 0.39	232.5
金属製品工業	892.4	110.3	102.8	▲ 6.8	▲ 0.65	418.1
はん用・生産用・業務用機械工業	1347.1	119.3	114.5	▲ 4.0	▲ 0.63	1273.1
電気機械工業	2247.2	60.3	52.8	▲ 12.4	▲ 1.64	1939.7
輸送機械工業	303.3	105.0	119.6	13.9	0.43	1912.4
窯業・土石製品工業	286.3	88.0	80.0	▲ 9.1	▲ 0.22	315.8
化学工業	1495.7	153.1	163.7	6.9	1.54	1277.4
医薬品	1029.1	180.9	195.0	7.8	1.41	272.0
プラスチック製品工業	826.0	101.0	99.0	▲ 2.0	▲ 0.16	507.5
パルプ・紙・紙加工品工業	316.9	100.8	97.8	▲ 3.0	▲ 0.09	203.6
繊維工業	268.7	98.9	95.7	▲ 3.2	▲ 0.08	183.4
食料品工業	409.2	113.2	110.9	▲ 2.0	▲ 0.09	613.9
その他工業	441.7	98.9	98.8	▲ 0.1	▲ 0.00	534.6
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	10704.1	103.3	101.6	▲ 1.6	▲ 1.77	10560.0
電力・ガス事業	704.1	108.0	113.0	4.6	0.34	560.0

※ 寄与度 = $\frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

業種別にみると、製造工業 13 業種中、電気機械工業、金属製品工業、はん用・生産用・業務用機械工業など 11 業種が低下し、化学工業、輸送機械工業の 2 業種が上昇した（表 2、表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

生産指数（原指数）全体の低下に最も影響を与えたのは、電気機械工業（寄与度▲1.64）で、集積回路などの減少により、前年比▲12.4%の 52.8 となった。次いで、金属製品工業（寄与度▲0.65）が、金属製建具などの減少により前年比▲6.8%の 102.8 となった。

一方、上昇に最も影響を与えたのは化学工業（寄与度 1.54）で医薬品などの増加により、前年比 6.9%上昇の 163.7 となった。次いで、輸送機械工業（寄与度 0.43）が自動車ボデーなどの増加で前年比 13.9%上昇の 119.6 となった。

表3 業種別生産指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	電気機械工業	▲ 1.64	電子部品	集積回路
	金属製品工業	▲ 0.65	鉄構物	金属製建具
	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 0.63	ロボット・産業機械	金属工作機械
	非鉄金属工業	▲ 0.39	その他非鉄金属製品	アルミニウム圧延製品
	窯業・土石製品工業	▲ 0.22	その他窯業・土石製品	炭素製品
	鉄鋼業	▲ 0.17	—	素製品(鋼半製品含)
	プラスチック製品工業	▲ 0.16	容器	フィルム・シート
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 0.09	ダンボール・箱・袋	その他紙製品
	食料品工業	▲ 0.09	畜産製品	冷凍調理品
	繊維工業	▲ 0.08	化繊・紡績	衣類
	その他工業	▲ 0.00	その他製品工業	木材・木製品工業
上昇業種	化学工業	1.54	医薬品	接着剤
	輸送機械工業	0.43	自動車ボデー	二輪自動車部品

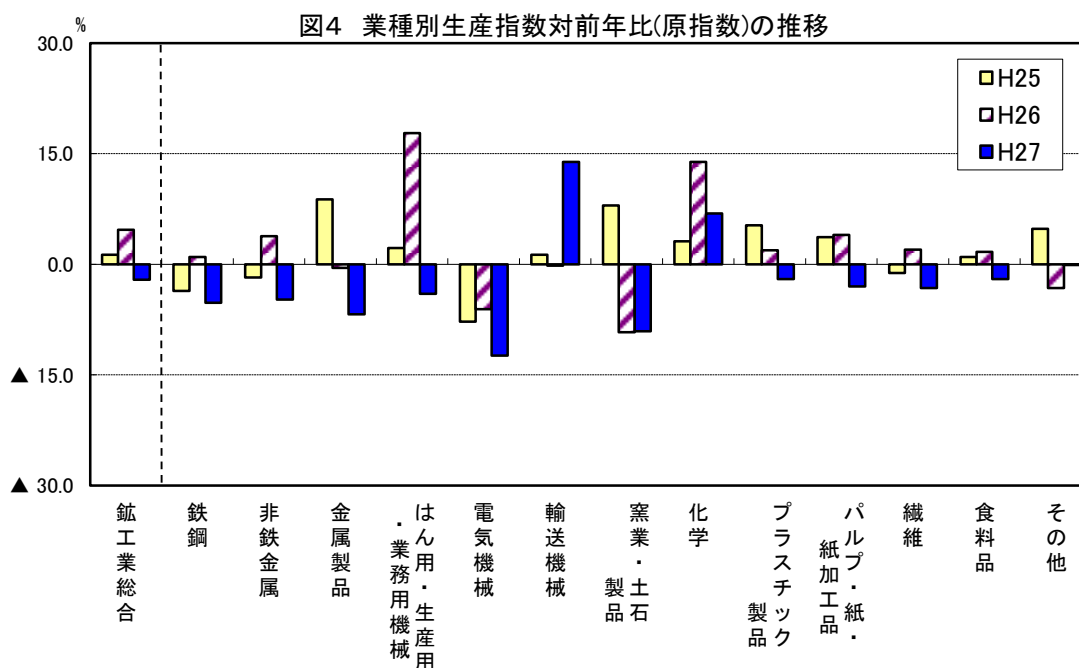


図5 業種別生産指数前年比と寄与度

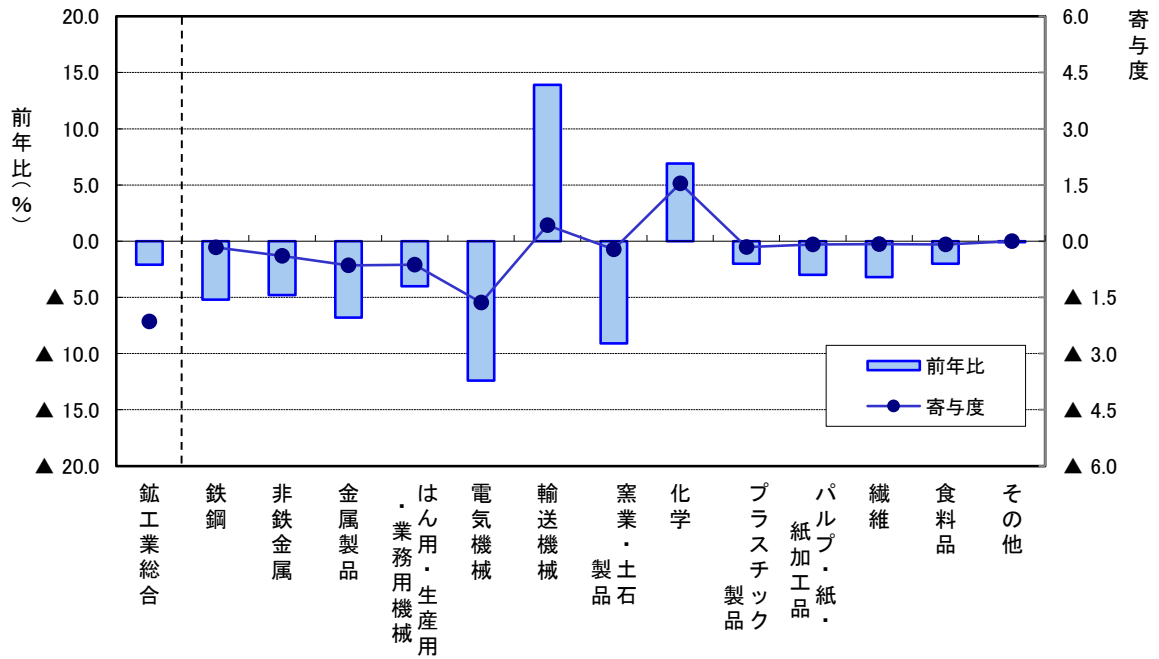
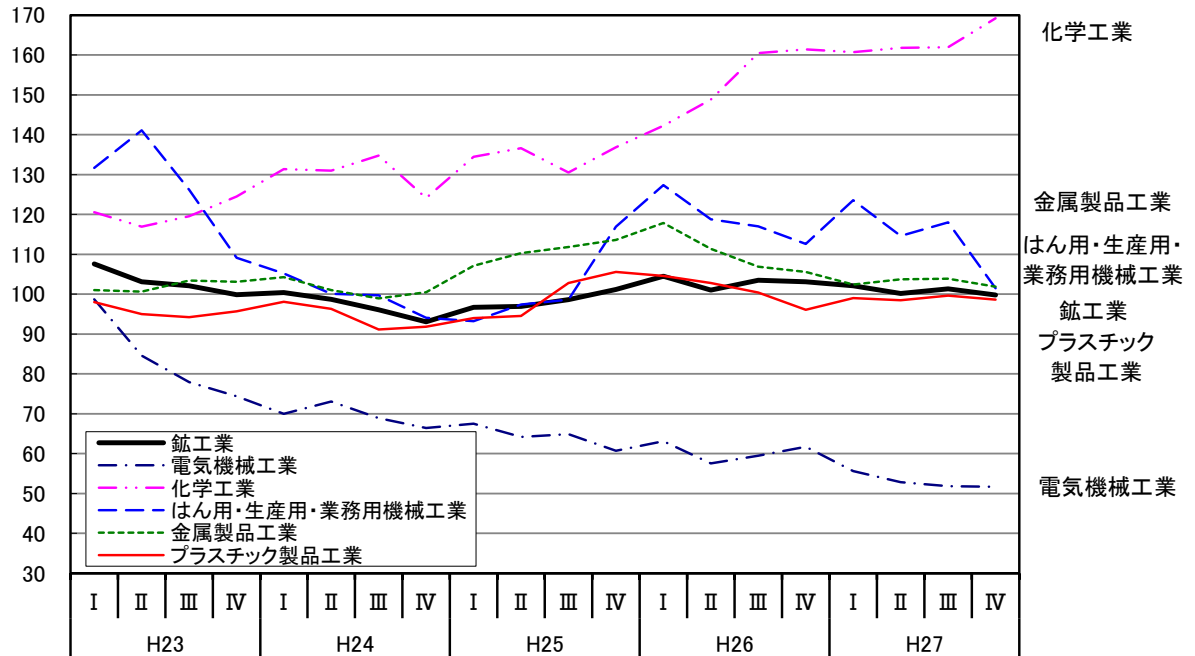


図6 生産指数(四半期季節調整済 平成22年=100)の推移

ウェイトが上位5位の業種



財用途別生産指数(原指数)の前年比は、最終需要財が▲0.4%となり、生産財が▲3.5%となったことにより、全体で▲2.1%となった。

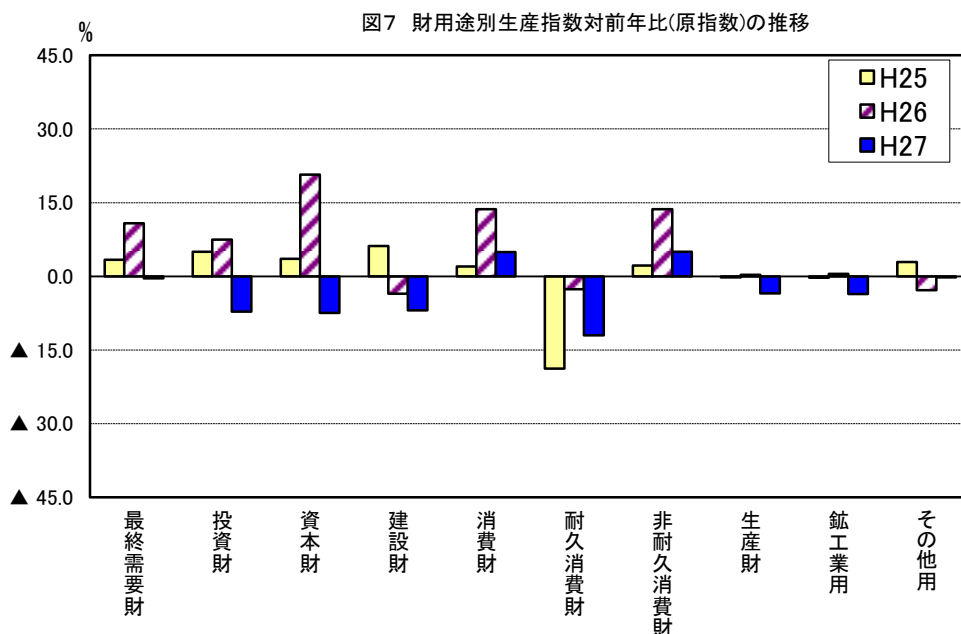
最終需要財は、消費財(寄与度 1.21)は前年比 5.0%上昇したが、投資財(寄与度▲1.38)が前年比▲7.1%となったことにより、全体では▲0.4%となった。

生産財では、鉱工業用生産財(寄与度▲1.94)が前年比▲3.6%となった(表4、図7、統計表第2表)。

表4 生産指数(財用途分類・年平均)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	年平均指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%point)
		26年	27年		
鉱工業	10000.0	103.0	100.8	▲ 2.1	▲ 2.14
最終需要財	3519.3	128.3	127.8	▲ 0.4	▲ 0.17
投資財	1896.8	105.2	97.7	▲ 7.1	▲ 1.38
資本財	869.6	116.3	107.6	▲ 7.5	▲ 0.73
建設財	1027.2	95.9	89.3	▲ 6.9	▲ 0.66
消費財	1622.5	155.3	163.0	5.0	1.21
耐久消費財	4.7	112.5	99.0	▲ 12.0	▲ 0.01
非耐久消費財	1617.8	155.5	163.2	5.0	1.21
生産財	6480.7	89.2	86.1	▲ 3.5	▲ 1.95
鉱工業用生産財	6247.9	88.8	85.6	▲ 3.6	▲ 1.94
その他用生産財	232.8	99.1	98.9	▲ 0.2	▲ 0.00



(2) 在庫動向 — 在庫指数は上昇 —

平成27年の在庫指数(原指数)は、前年末比2.8%上昇の129.0となり、6年連続で上昇した(表5)。

平成27年の在庫の動きを四半期別にみると、前期末比(季節調整済指数)は、I期1.9%、II期0.2%と上昇したが、III期▲0.1%と低下し、IV期0.5%と再び上昇した。

また、前年同期末比(原指数)では、I期8.1%、II期5.1%、III期3.8%、IV期2.8%と平成25年IV期以降9期連続で前年を上回った(表5、図8、図9、統計表第4表)。

表5 鉱工業生産者製品在庫指数の推移 平成22年=100

	富 山			全 国		
	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成23年	115.5	13.1	-	105.0	2.0	-
24年	116.0	0.4	-	110.5	5.2	-
25年	119.5	3.0	-	105.7	▲4.3	-
26年	125.5	5.0	-	112.3	6.2	-
27年	129.0	2.8	-	112.3	0.0	-
平成27年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	130.7	-	1.9	113.3	-	0.9
II 期	130.9	-	0.2	113.9	-	0.5
III 期	130.8	-	▲0.1	113.3	-	▲0.5
IV 期	131.4	-	0.5	112.7	-	▲0.5

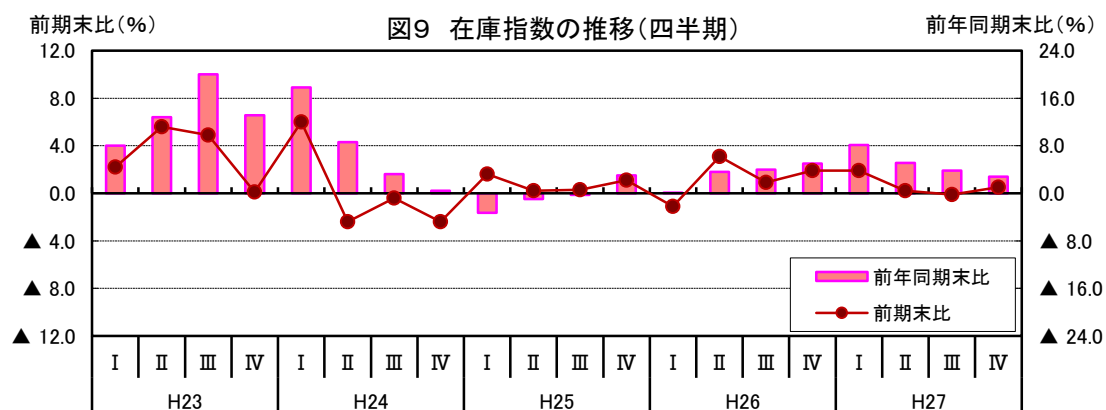
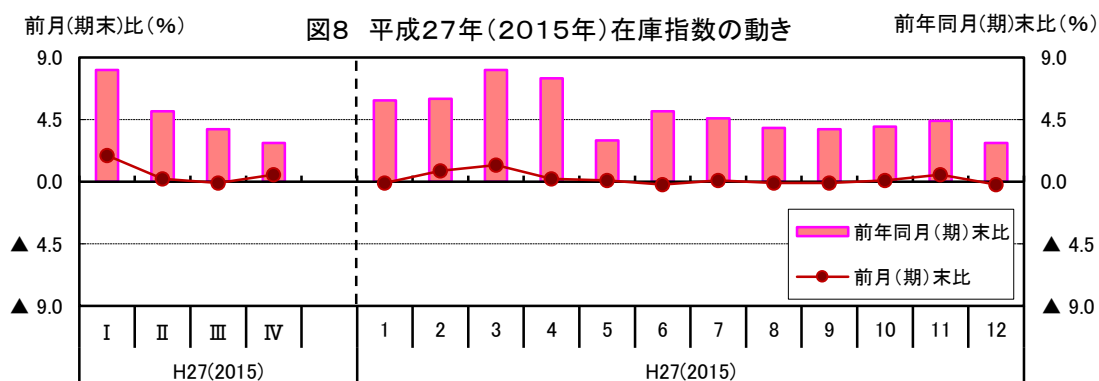


表6 在庫指数(年末)

平成22年=100

	富山県	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考)
	ウェイト	26年	27年			ウェイト
鉱工業	10000.0	125.5	129.0	2.8	2.79	10000.0
製造工業	10000.0	125.5	129.0	2.8	2.79	9988.1
鉄鋼業	719.2	81.2	72.8	▲ 10.3	▲ 0.48	1382.7
非鉄金属工業	554.1	88.9	81.7	▲ 8.1	▲ 0.32	306.5
金属製品工業	638.1	86.8	76.5	▲ 11.9	▲ 0.52	435.0
はん用・生産用・業務用機械工業	1462.6	134.0	129.7	▲ 3.2	▲ 0.50	1127.1
電気機械工業	374.5	252.0	329.5	30.8	2.31	973.5
輸送機械工業	200.6	170.5	180.8	6.0	0.16	1013.1
窯業・土石製品工業	409.7	82.7	81.6	▲ 1.3	▲ 0.04	643.2
化学工業	2727.9	157.5	168.7	7.1	2.43	1413.1
医薬品	1424.6	205.8	222.9	8.3	1.94	-
プラスチック製品工業	942.9	124.1	127.5	2.7	0.26	661.4
パルプ・紙・紙加工品工業	773.9	102.0	95.5	▲ 6.4	▲ 0.40	340.3
繊維工業	389.0	104.9	111.3	6.1	0.20	421.3
食料品工業	649.2	76.3	72.2	▲ 5.4	▲ 0.21	326.5
その他工業	158.3	113.0	100.8	▲ 10.8	▲ 0.15	446.9
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	10000.3	125.5	129.0	2.8	2.79	10000.0
電力・ガス事業	0.3	74.9	72.2	▲ 3.6	▲ 0.00	-

※ 寄与度 = $\frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

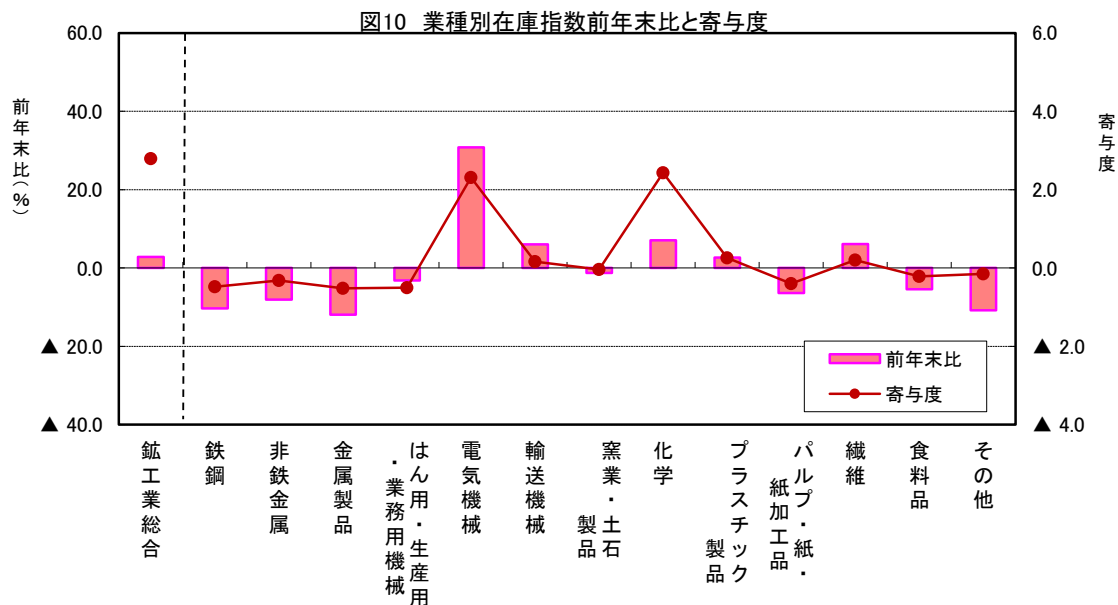
業種別にみると、製造工業 13 業種中、化学工業、電気機械工業、プラスチック製品工業など 5 業種が上昇し、金属製品工業、はん用・生産用・業務用機械工業など 8 業種が低下した（表 6、表 7、図 10、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

在庫指数（原指数）全体の上昇に最も影響を与えたのは化学工業（寄与度 2.43）で、医薬品などの増加により、前年末比 7.1%上昇の 168.7 となった。次いで、電気機械工業（寄与度 2.31）は電子部品の増加により、前年末比 30.8%上昇の 329.5 となった。

一方、低下に最も影響を与えたのは、金属製品工業（寄与度▲0.52）で金属製建具などの減少により、前年末比▲11.9%の 76.5 となった。次いで、はん用・生産用・業務用機械工業（寄与度▲0.50）が軸受などの減少で前年末比▲3.2%の 129.7 となった。

表7 業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	化学工業	2.43	医薬品	接着剤
	電気機械工業	2.31	電子部品	回転・静止電気機器
	プラスチック製品工業	0.26	フィルム・シート	日用品雑貨
	繊維工業	0.20	衣類	その他繊維製品
	輸送機械工業	0.16	自動車部品	—
低下業種	金属製品工業	▲ 0.52	その他金属製品	金属製建具
	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 0.50	金属工作機械	軸受
	鉄鋼業	▲ 0.48	鑄鍛鋼品類	素製品(鋼半製品含)
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 0.40	板紙	紙
	非鉄金属工業	▲ 0.32	非鉄金属地金	伸銅製品
	食料品工業	▲ 0.21	その他食料品	飲料
	その他工業	▲ 0.15	—	木材・木製品工業
	窯業・土石製品工業	▲ 0.04	セメント製品	炭素製品



財用途別在庫指数（原指数）の前年末比は、最終需要財が 0.9%上昇し、生産財が 4.2%上昇したことにより、全体で 2.8%の上昇となった。

最終需要財では、投資財（寄与度▲0.65）が前年末比▲6.6%となったが、消費財（寄与度 1.02）が前年末比 3.0%上昇したことにより、全体では 0.9%の上昇となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度 2.03）が前年末比 3.8%の上昇となった（表 8）。

表8 在庫指数(財用途分類・年末)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)
		26年	27年		
鉱工業	10000.0	125.5	129.0	2.8	2.79
最終需要財	3940.3	138.6	139.8	0.9	0.38
投資財	1336.7	91.9	85.8	▲ 6.6	▲ 0.65
資本財	266.9	103.4	106.0	2.5	0.06
建設財	1069.8	89.0	80.8	▲ 9.2	▲ 0.70
消費財	2603.6	162.6	167.5	3.0	1.02
耐久消費財	2.7	40.9	30.1	▲ 26.4	▲ 0.00
非耐久消費財	2600.9	162.7	167.7	3.1	1.04
生産財	6059.7	117.0	121.9	4.2	2.37
鉱工業用生産財	5657.0	119.2	123.7	3.8	2.03
その他用生産財	402.7	86.5	96.4	11.4	0.32

(3) 在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、平成 22 年Ⅰ期～平成 23 年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」に位置し、平成 23 年Ⅱ期～平成 24 年Ⅱ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。平成 24 年Ⅲ、Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動し、平成 25 年Ⅰ、Ⅱ期は「在庫調整局面」と「在庫減少局面」の境目付近に位置し、平成 25 年Ⅲ期～平成 26 年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ移動した。平成 26 年Ⅱ、Ⅲ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に位置し、平成 26 年Ⅳ期～平成 27 年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。平成 27 年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目付近に位置している。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成 22 年Ⅰ～Ⅳ期は「在庫積み増し局面」に位置し、平成 23 年Ⅰ期は「在庫調整局面」と「在庫減少局面」の境目付近へ移動した。平成 23 年Ⅱ期は「在庫調整局面」へ移動し、平成 23 年Ⅲ期～平成 24 年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。平成 24 年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」へ移動し、平成 24 年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」に移動した。平成 24 年Ⅳ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目付近に位置し、平成 25 年Ⅰ期は「在庫調整局面」へ移動した。平成 25 年Ⅱ期は「在庫調整局面」と「在庫減少局面」の境目付近に位置し、平成 25 年Ⅲ期は「在庫減少局面」へ移動し、平成 25 年Ⅳ期、平成 26 年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ移動した。平成 26 年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に位置し、平成 26 年Ⅲ期～平成 27 年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。平成 27 年Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起り、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ 40 ヶ月（3～4 年）の循環を示すことが多く、「キチンの波」（キチン(Kitchin)が分析したもの）とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、次のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（意図せざる在庫投資、図 c1,c2）。

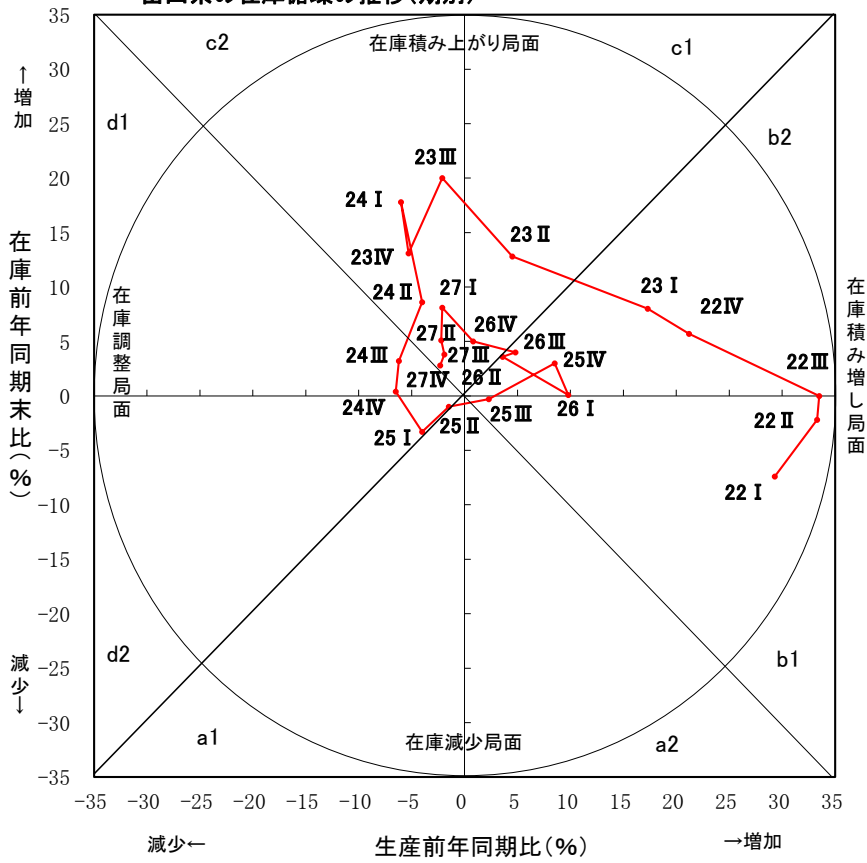
「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

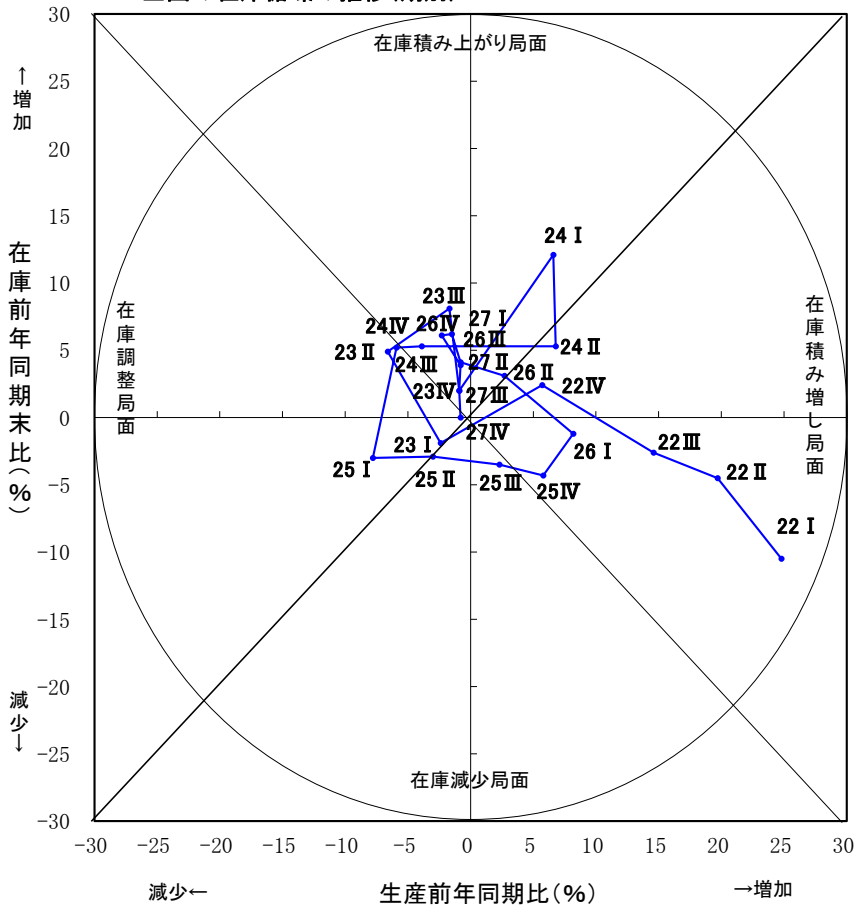
「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（意図せざる在庫減局面、図 a1,a2）。

富山県の在庫循環の推移(期別)



全国の在庫循環の推移(期別)



MEMO

2 業種別動向

(1) 鉄鋼業

① 概況

生産指数は前年比▲5.2%（寄与度▲0.17）で88.4となり、2年ぶりに低下した。これは、3品目すべて（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材、鋳鍛鋼品類）が減少したことによる（表1、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲10.3%（寄与度▲0.48）で72.8となり、3年連続で低下した。これは3品目中、1品目（鋳鍛鋼品類）が増加したものの、2品目（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材）が減少したことによる（表1、統計表第9表）。

表1 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
鉄鋼業	369.9	93.2	88.4	▲5.2	▲0.17	719.2	81.2	72.8	▲10.3	▲0.48
素製品(鋼半製品含)	128.7	110.3	102.6	▲7.0	▲0.10	557.6	70.4	62.8	▲10.8	▲0.34
熱間圧延鋼材	76.7	89.1	80.9	▲9.2	▲0.06	131.9	123.7	106.7	▲13.7	▲0.18
鋳鍛鋼品類	164.5	81.8	80.9	▲1.1	▲0.01	29.7	96.0	110.1	14.7	0.03

寄与度は鉱工業に対する数値

図1 鉄鋼業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

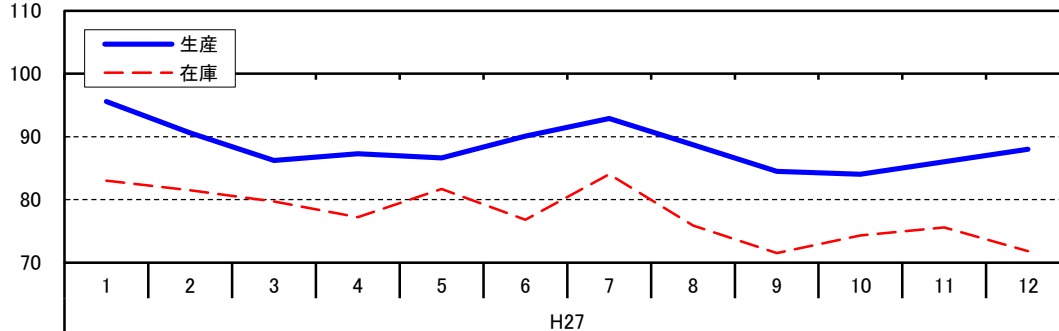
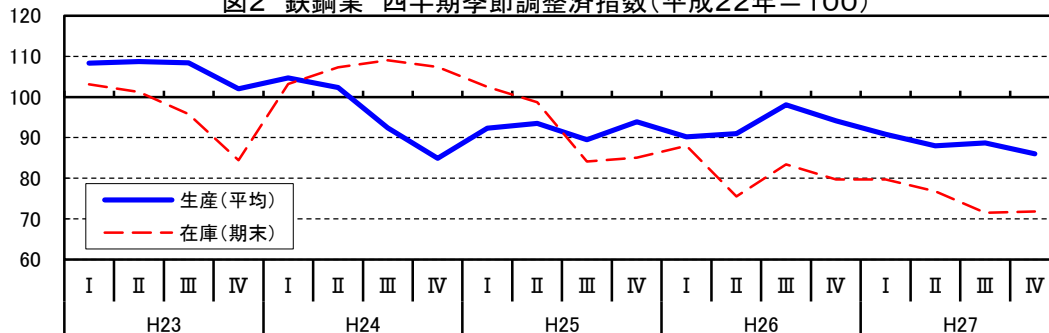


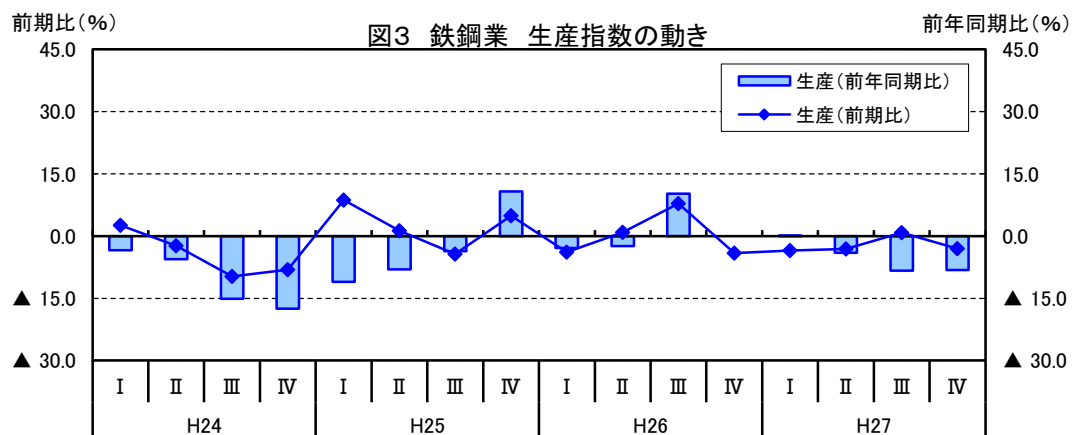
図2 鉄鋼業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲3.5%、Ⅱ期▲3.1%と平成26年Ⅳ期以降3期連続で低下し、Ⅲ期0.8%と上昇したが、Ⅳ期▲3.0%と再び低下した。

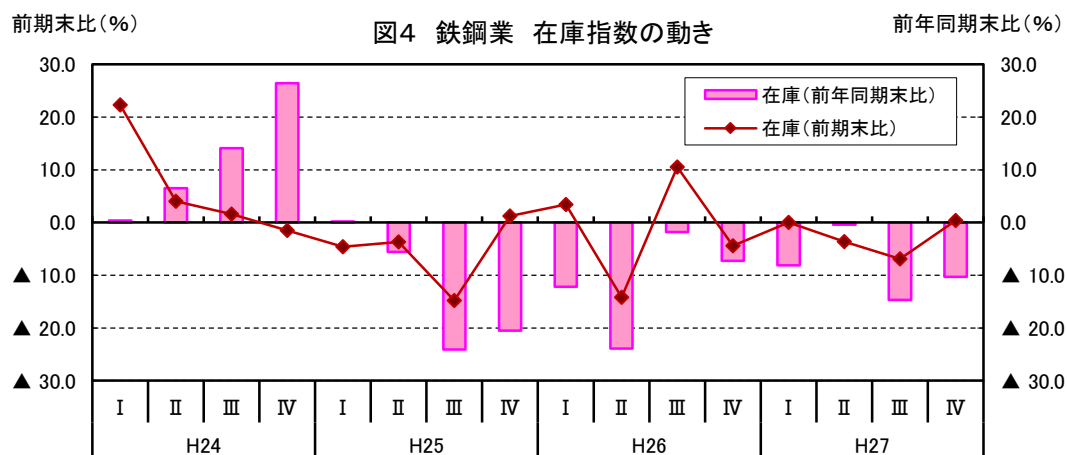
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期0.1%と上昇し、Ⅱ期▲4.0%、Ⅲ期▲8.3%、Ⅳ期▲8.2%と3期連続で前年を下回った（図3、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期0.0%と横ばいとなり、Ⅱ期▲3.6%、Ⅲ期▲6.9%と2期連続で低下したが、Ⅳ期0.4%と上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲8.1%、Ⅱ期▲0.4%、Ⅲ期▲14.7%、Ⅳ期▲10.3%と平成25年Ⅱ期以降11期連続で前年を下回った（図4、統計表第4表）。



(2) 非鉄金属工業

① 概況

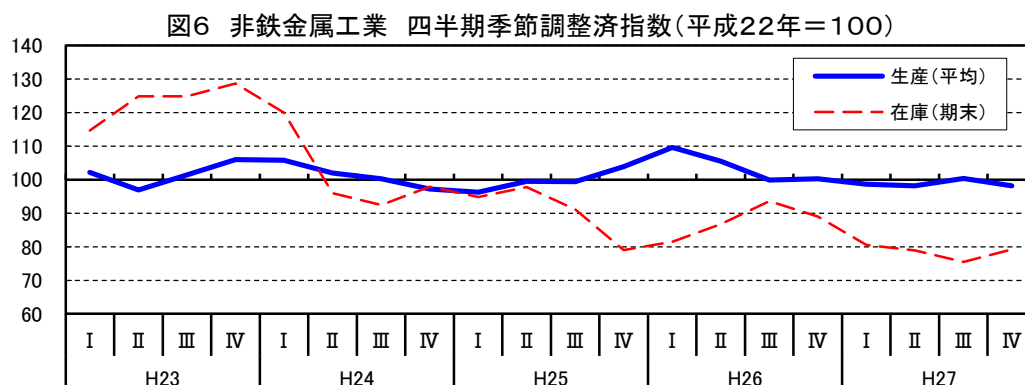
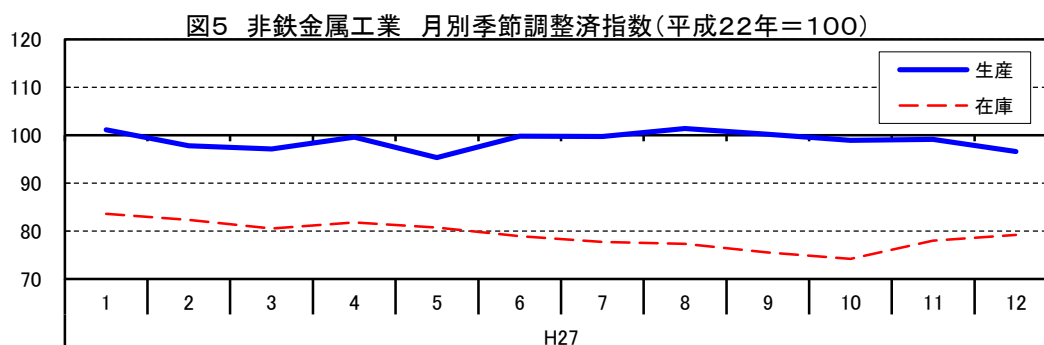
生産指数は前年比▲4.8%（寄与度▲0.39）で98.8となり、2年ぶりに低下した。これは7品目中、3品目（非鉄金属地金、非鉄金属鋳物、その他非鉄金属製品）が増加したものの、4品目（アルミニウム二次精錬、伸銅製品、アルミニウム圧延製品、電線ケーブル）が減少したことによる（表2、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲8.1%（寄与度▲0.32）で81.7となり、2年ぶりに低下した。これは6品目中、1品目（非鉄金属地金）が増加したものの、5品目（アルミニウム二次精錬、伸銅製品、アルミニウム圧延製品、電線ケーブル、その他非鉄金属製品）が減少したことによる（表2、統計表第9表）。

表2 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
		平成22年=100								
非鉄金属工業	795.6	103.8	98.8	▲4.8	▲0.39	554.1	88.9	81.7	▲8.1	▲0.32
アルミニウム二次精錬	109.3	100.5	94.2	▲6.3	▲0.07	41.3	80.2	76.0	▲5.2	▲0.01
非鉄金属地金	17.4	89.0	94.4	6.1	0.01	67.0	63.2	116.1	83.7	0.28
伸銅製品	105.6	114.0	102.0	▲10.5	▲0.12	163.6	118.3	97.2	▲17.8	▲0.28
アルミニウム圧延製品	402.8	99.3	92.3	▲7.0	▲0.27	257.6	66.2	53.1	▲19.8	▲0.27
電線ケーブル	22.3	99.7	91.6	▲8.1	▲0.02	24.2	218.7	196.7	▲10.1	▲0.04
非鉄金属鋳物	126.4	114.4	117.0	2.3	0.03	-	-	-	-	-
その他非鉄金属製品	11.8	109.9	159.7	45.3	0.06	0.4	97.8	85.6	▲12.5	▲0.00

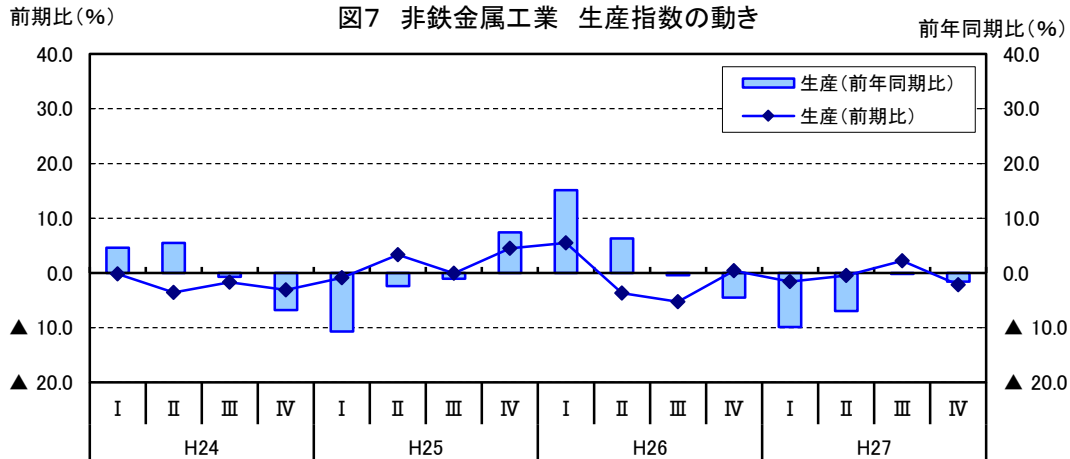
寄与度は鉱工業に対する数値



① 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲1.6%、Ⅱ期▲0.5%と2期連続で低下し、Ⅲ期2.2%と上昇したが、Ⅳ期▲2.2%と再び低下した。

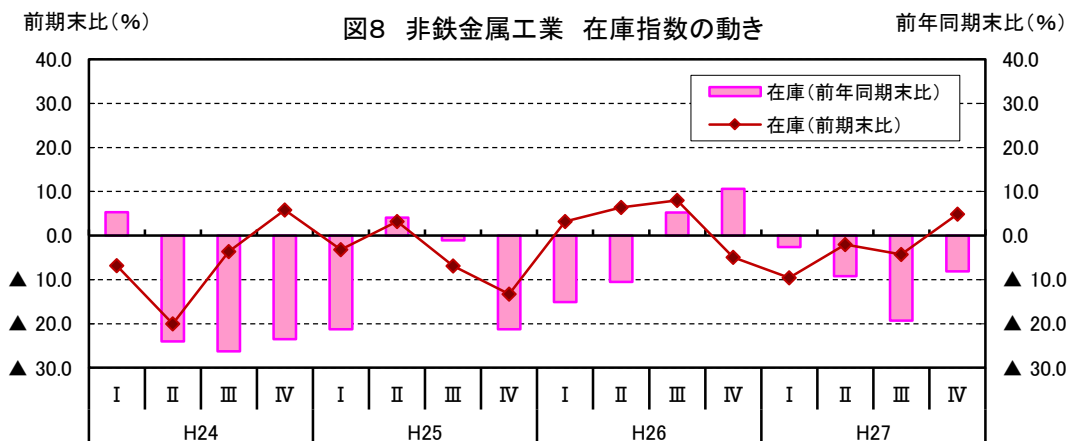
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲9.9%、Ⅱ期▲7.0%、Ⅲ期▲0.2%、Ⅳ期▲1.6%と平成26年Ⅲ期以降6期連続で前年を下回った（図7、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲9.6%、Ⅱ期▲2.0%、Ⅲ期▲4.3%と平成26年Ⅳ期以降4期連続で低下したが、Ⅳ期4.9%と上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲2.6%、Ⅱ期▲9.2%、Ⅲ期▲19.3%、Ⅳ期▲8.1%と4期連続で前年を下回った（図8、統計表第4表）。



(3) 金属製品工業

① 概況

生産指数は前年比▲6.8%（寄与度▲0.65）で102.8となり、2年連続で低下した。これは6品目中、1品目（鉄構物）が増加したものの、5品目（金属製建具、軽金属板製品、管継手、ばね、その他金属製品）が減少したことによる（表3、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲11.9%（寄与度▲0.52）で76.5となり、2年連続で低下した。これは4品目中、2品目（軽金属板製品、その他金属製品）が増加したものの、2品目（金属製建具、ばね）が減少したことによる（表3、統計表第9表）。

表3 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
		平成22年=100								
金属製品工業	892.4	110.3	102.8	▲6.8	▲0.65	638.1	86.8	76.5	▲11.9	▲0.52
鉄構物	64.3	94.2	101.6	7.9	0.05	-	-	-	-	-
金属製建具	708.0	102.0	95.6	▲7.0	▲0.49	591.4	81.2	69.5	▲14.4	▲0.55
軽金属板製品	50.9	238.9	230.8	▲3.4	▲0.04	26.5	183.5	190.9	4.0	0.02
管継手	4.9	125.7	117.6	▲6.4	▲0.00	-	-	-	-	-
ばね	5.5	109.8	105.9	▲3.6	▲0.00	6.3	169.6	135.2	▲20.3	▲0.02
その他金属製品	58.8	106.3	79.1	▲25.6	▲0.16	13.9	100.8	131.8	30.8	0.03

寄与度は鉱工業に対する数値

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

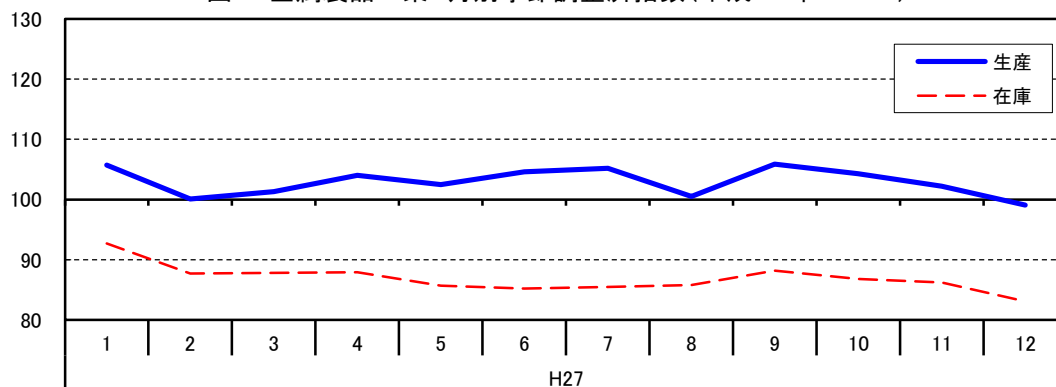
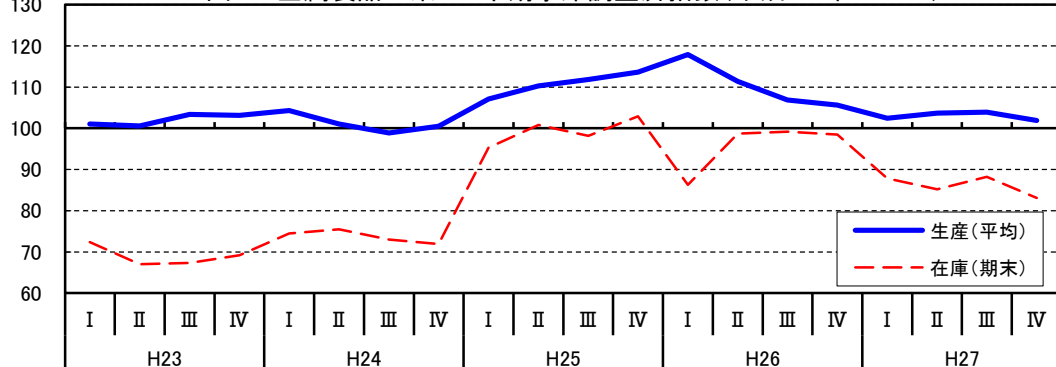


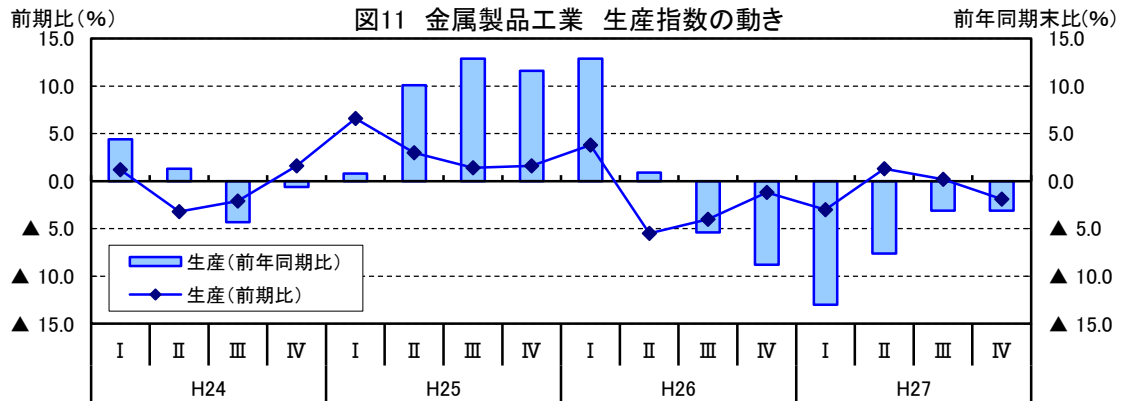
図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲3.0%と平成26年Ⅱ期以降4期連続で低下し、Ⅱ期1.3%、Ⅲ期0.2%と2期連続で上昇したが、Ⅳ期▲1.9%と再び低下した。

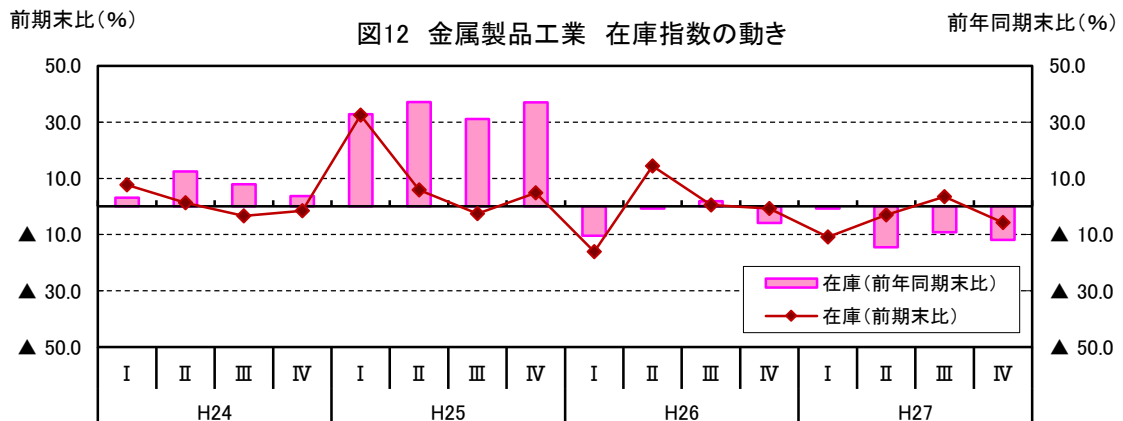
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲13.0%、Ⅱ期▲7.6%、Ⅲ期▲3.1%、Ⅳ期▲3.1%と平成26年Ⅲ期以降6期連続で前年を下回った（図11、統計表第3表）。



① 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲10.9%、Ⅱ期▲3.0%と平成26年Ⅳ期以降3期連続で低下し、Ⅲ期3.5%と上昇したが、Ⅳ期▲5.8%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲0.7%、Ⅱ期▲14.5%、Ⅲ期▲9.2%、Ⅳ期▲11.9%と平成26年Ⅳ期以降5期連続で前年を下回った（図12、統計表第4表）。



(4) はん用・生産用・業務用機械工業

① 概況

生産指数は前年比▲4.0%（寄与度▲0.63）で114.5となり、3年ぶりに低下した。これは8品目中、3品目（油圧機器、ロボット・産業機械、業務用機械）が増加したものの、5品目（軸受、金属工作機械、金型、機械工具、その他一般機械・部品）が減少したことによる（表4、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲3.2%（寄与度▲0.50）で129.7となり、2年ぶりに低下した。これは5品目中、2品目（金属工作機械、業務用機械）が増加したものの、3品目（軸受、機械工具、その他一般機械・部品）が減少したことによる（表4、統計表第9表）。

表4 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成22年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
はん用・生産用・業務用機械工業	1347.1	119.3	114.5	▲ 4.0	▲ 0.63	1462.6	134.0	129.7	▲ 3.2	▲ 0.50
油圧機器	86.2	153.6	174.7	13.7	0.18	-	-	-	-	-
軸受	313.7	112.6	105.4	▲ 6.4	▲ 0.22	580.5	139.5	129.1	▲ 7.5	▲ 0.48
ロボット・産業機械	283.7	170.3	188.2	10.5	0.49	-	-	-	-	-
金属工作機械	371.8	84.5	58.7	▲ 30.5	▲ 0.93	88.4	48.6	82.5	69.8	0.24
金型	59.5	124.0	106.4	▲ 14.2	▲ 0.10	-	-	-	-	-
機械工具	180.9	113.6	111.0	▲ 2.3	▲ 0.05	708.6	143.4	140.0	▲ 2.4	▲ 0.19
その他一般機械・部品	36.8	101.7	99.5	▲ 2.2	▲ 0.01	42.0	163.0	90.3	▲ 44.6	▲ 0.24
業務用機械	14.5	53.6	60.4	12.7	0.01	43.1	52.6	102.5	94.9	0.17

寄与度は鉱工業に対する数値

図13 はん用・生産用・業務用機械工業月別季節調整済指数(平成22年=100)

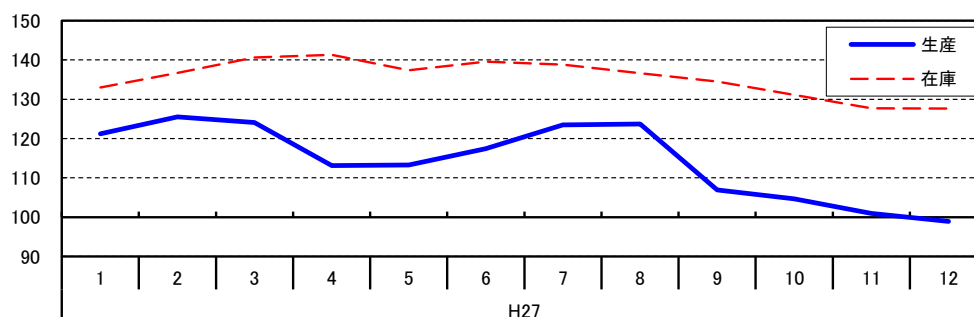
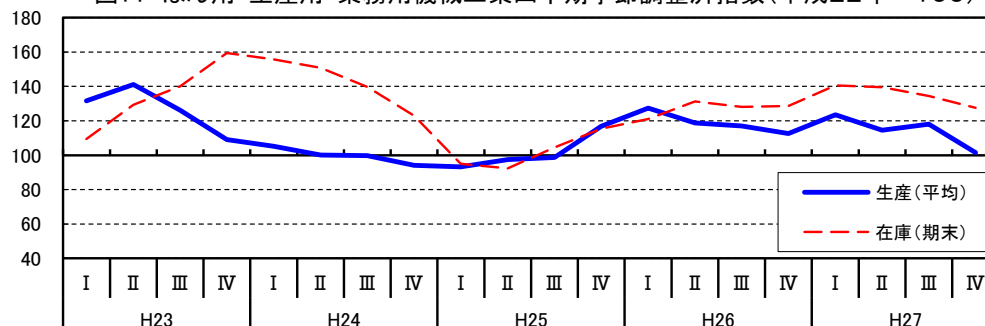


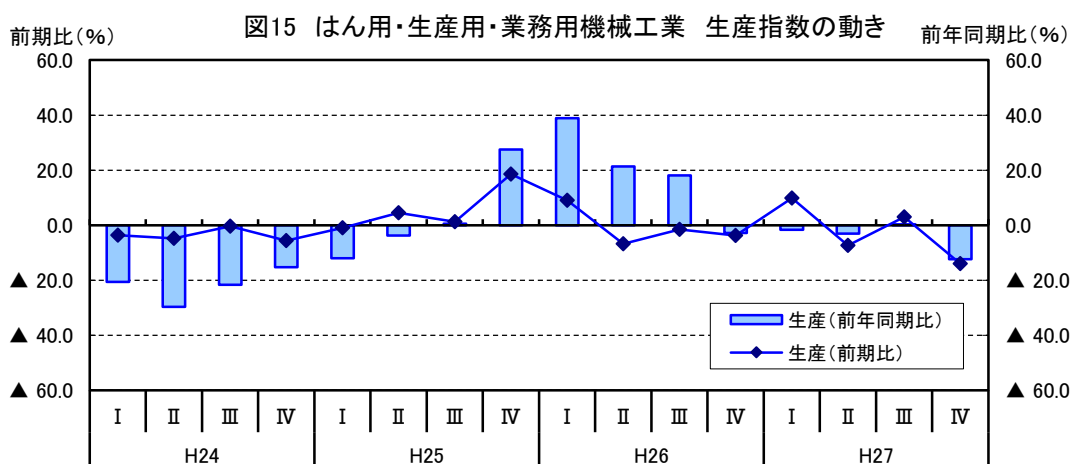
図14 はん用・生産用・業務用機械工業四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 9.8%と上昇し、Ⅱ期▲7.3%と低下したが、Ⅲ期 3.0%と上昇し、Ⅳ期▲14.0%と再び低下した。

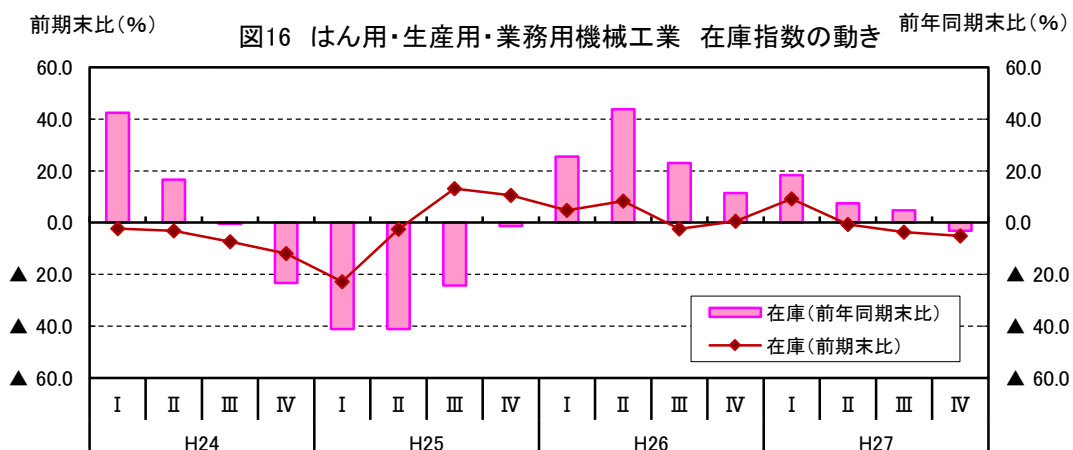
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲1.7%、Ⅱ期▲3.1%と平成 26 年Ⅳ期以降 3 期連続で前年を下回り、Ⅲ期 0.3%と前年を上回ったが、Ⅳ期▲12.4%と再び前年を下回った（図 15、統計表第 3 表）。



① 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 9.2%と平成 26 年Ⅳ期以降 2 期連続で上昇し、Ⅱ期▲0.7%、Ⅲ期▲3.7%、Ⅳ期▲5.1%と 3 期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 18.3%、Ⅱ期 7.5%、Ⅲ期 4.7%と平成 26 年Ⅰ期以降 7 期連続で前年を上回り、Ⅳ期▲3.2%と前年を下回った（図 16、統計表第 4 表）。



(5) 電気機械工業

① 概況

生産指数は前年比▲12.4%（寄与度▲1.64）で52.8となり、5年連続で低下した。これは6品目中、1品目（電子部品）が増加したものの、5品目（回転・静止電気機器、その他電気機械、半導体、集積回路、抵抗器）が減少したことによる（表5、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比30.8%（寄与度2.31）で329.5となり、2年ぶりに上昇した。これは3品目中、2品目（回転・静止電気機器、半導体）が減少したものの、1品目（電子部品）が増加したことによる（表5、統計表第9表）。

表5 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
電気機械工業	2247.2	60.3	52.8	▲12.4	▲1.64	374.5	252.0	329.5	30.8	2.31
回転・静止電気機器	54.9	82.9	63.4	▲23.5	▲0.10	51.7	122.4	113.0	▲7.7	▲0.04
その他電気機械	41.8	89.7	67.3	▲25.0	▲0.09	-	-	-	-	-
半導体	12.5	60.4	47.0	▲22.2	▲0.02	58.6	39.4	39.1	▲0.8	▲0.00
集積回路	1705.5	48.9	38.5	▲21.3	▲1.72	-	-	-	-	-
抵抗器	31.4	72.4	65.6	▲9.4	▲0.02	-	-	-	-	-
電子部品	401.1	101.8	110.1	8.2	0.32	264.2	324.5	436.3	34.5	2.35

平成22年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図17 電気機械工業 月別季節調整済指数(平成22=100)

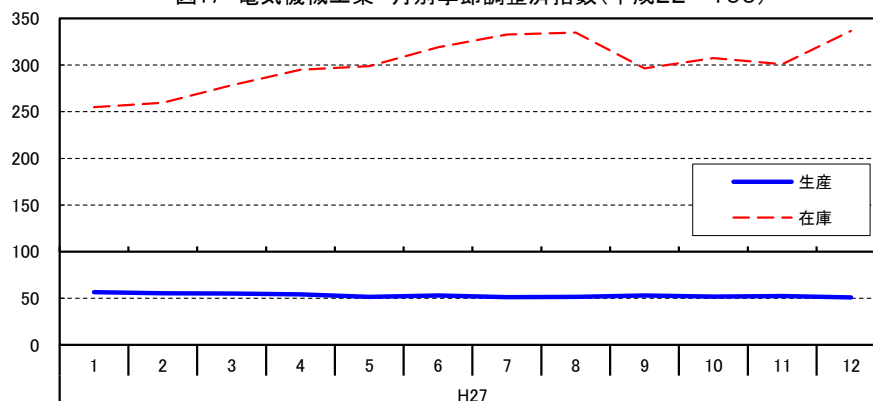
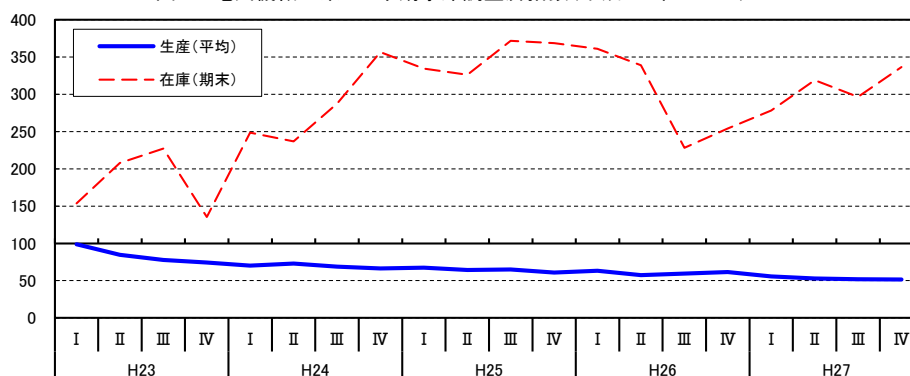


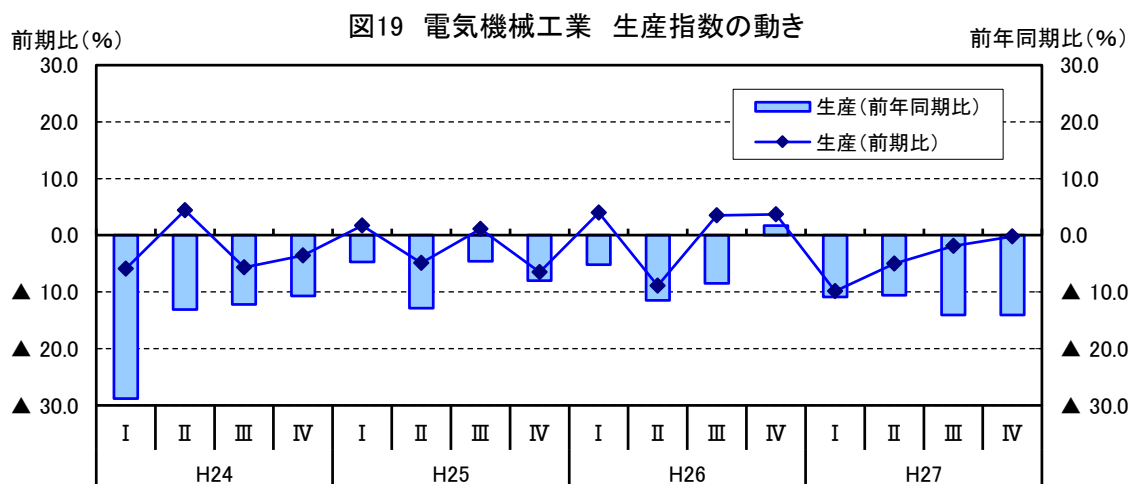
図18 電気機械工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲9.9%、Ⅱ期▲5.0%、Ⅲ期▲1.9%、Ⅳ期▲0.2%と4期連続で低下した。

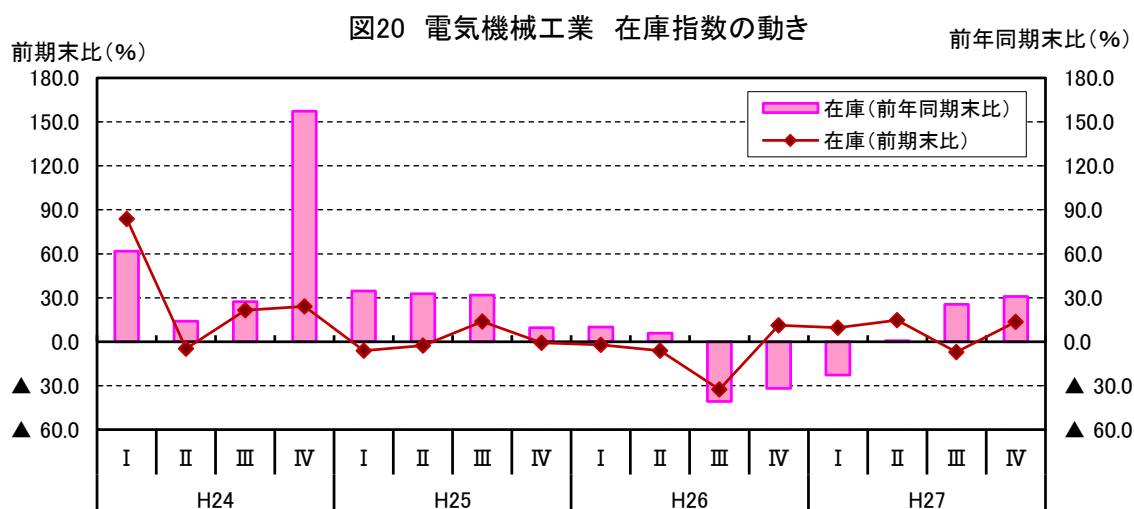
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲10.9%、Ⅱ期▲10.6%、Ⅲ期▲14.1%、Ⅳ期▲14.1%と4期連続で前年を下回った（図19、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 9.6%、Ⅱ期 14.7%と平成 26 年Ⅳ期以降 3 期連続で上昇し、Ⅲ期▲7.1%と低下したが、Ⅳ期 13.5%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲22.8%と平成 26 年Ⅲ期以降 3 期連続で前年を下回り、Ⅱ期 0.8%、Ⅲ期 25.5%、Ⅳ期 30.8%と 3 期連続で前年を上回った（図 20、統計表第 4 表）。



(6) 輸送機械工業

① 概況

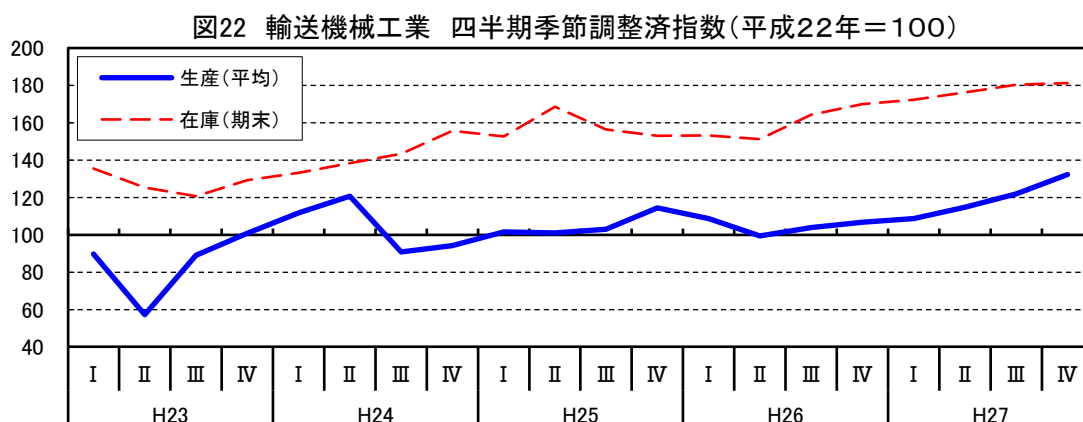
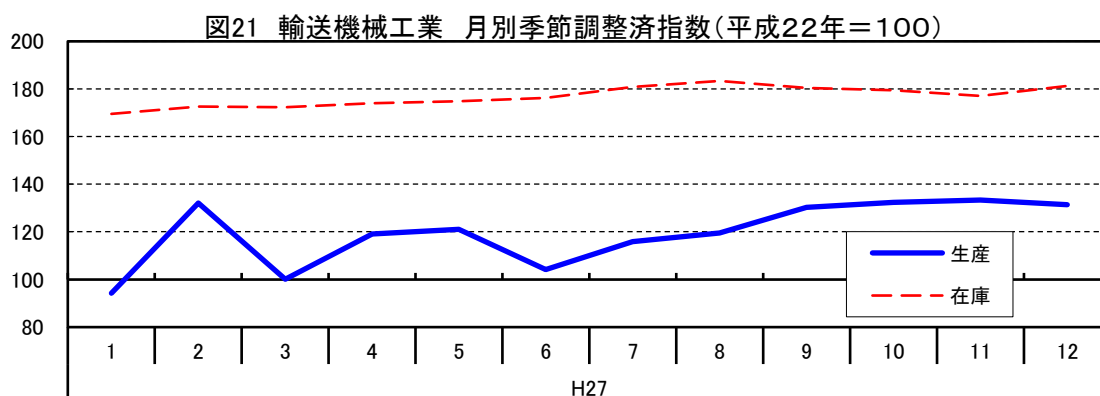
生産指数は前年比 13.9%（寄与度 0.43）で 119.6 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 3 品目中、1 品目（二輪自動車部品）が減少したものの、2 品目（自動車ボデー、自動車部品）が増加したことによる（表 6、統計表第 7 表）。

在庫指数は前年末比 6.0%（寄与度 0.16）の上昇で 180.8 となり、2 年連続で上昇した。これは 2 品目すべて（自動車部品、二輪自動車部品）が増加したことによる（表 6、統計表第 9 表）。

表6 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
		平成22年=100								
輸送機械工業	303.3	105.0	119.6	13.9	0.43	200.6	170.5	180.8	6.0	0.16
自動車ボデー	176.7	108.7	134.0	23.3	0.43	-	-	-	-	-
自動車部品	107.1	110.4	111.9	1.4	0.02	109.1	136.5	148.1	8.5	0.10
二輪自動車部品	19.5	41.2	31.9	▲ 22.6	▲ 0.02	91.5	211.0	219.7	4.1	0.06

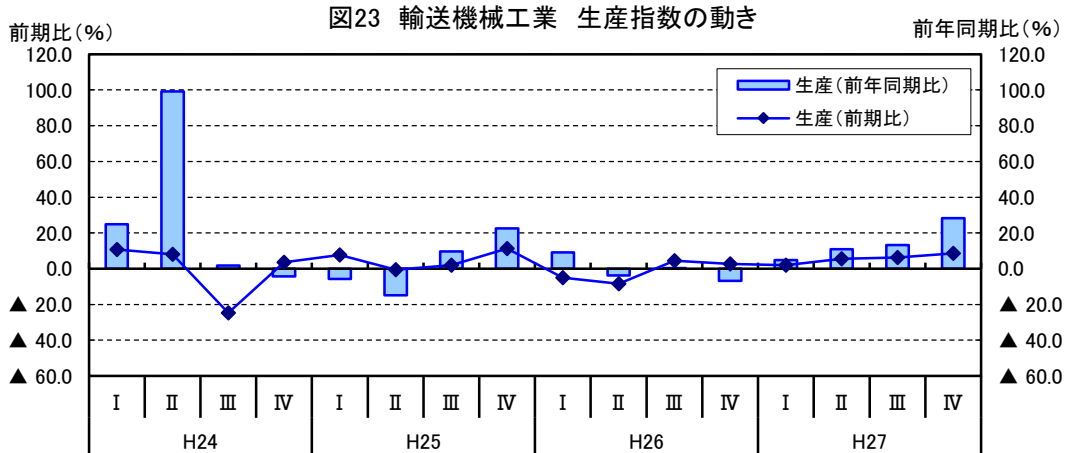
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 2.0%、Ⅱ期 5.5%、Ⅲ期 6.2%、Ⅳ期 8.6%と平成 26 年Ⅲ期以降 6 期連続で上昇した。

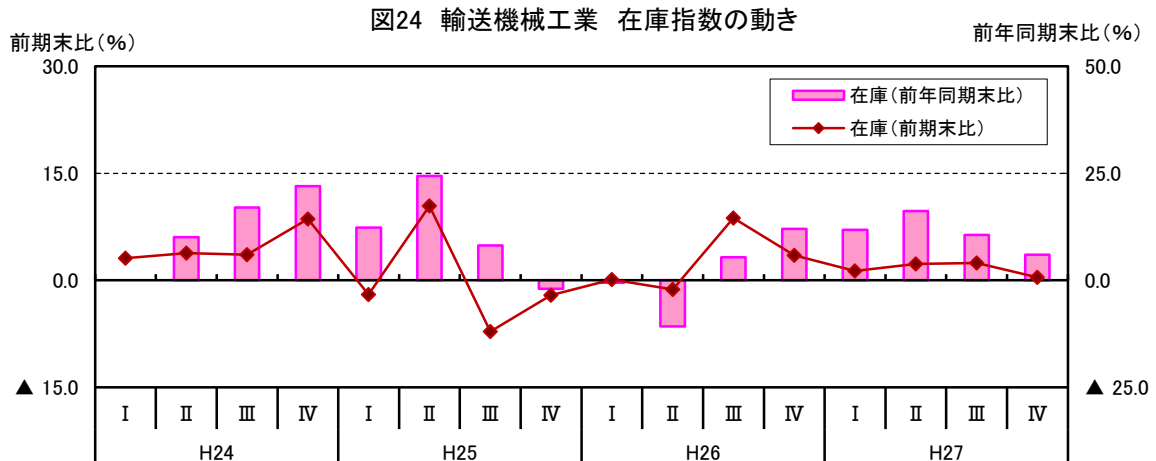
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 4.8%、Ⅱ期 10.9%、Ⅲ期 13.2%、Ⅳ期 28.3%と 4 期連続で前年を上回った（図 23、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 1.3%、Ⅱ期 2.3%、Ⅲ期 2.4%、Ⅳ期 0.4%と平成 26 年Ⅲ期以降 6 期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 11.8%、Ⅱ期 16.2%、Ⅲ期 10.6%、Ⅳ期 6.0%と平成 26 年Ⅲ期以降 6 期連続で前年を上回った（図 24、統計表第 4 表）。



(7) 窯業・土石製品工業

① 概況

生産指数は前年比▲9.1%（寄与度▲0.22）で80.0となり、2年連続で低下した。これは6品目中、1品目（その他窯業・土石製品）が増加したものの、5品目（ガラス製品、生コンクリート、セメント製品、炭素製品、ファインセラミックス）が減少したことによる（表7、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲1.3%（寄与度▲0.04）で81.6となり、2年連続で低下した。これは5品目中、1品目（セメント製品）が増加したものの、4品目（ガラス製品、炭素製品、ファインセラミックス、その他窯業・土石製品）が減少したことによる（表7、統計表第9表）。

表7 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
		平成22年=100					平成22年=100			
窯業・土石製品工業	286.3	88.0	80.0	▲9.1	▲0.22	409.7	82.7	81.6	▲1.3	▲0.04
ガラス製品	60.3	116.0	108.1	▲6.8	▲0.05	19.2	192.1	183.9	▲4.3	▲0.01
生コンクリート	89.8	66.0	57.9	▲12.3	▲0.07	-	-	-	-	-
セメント製品	14.8	111.3	99.7	▲10.4	▲0.02	228.1	82.0	85.6	4.4	0.07
炭素製品	100.4	89.1	80.1	▲10.1	▲0.09	73.8	51.9	42.0	▲19.1	▲0.06
ファインセラミックス	6.4	60.8	48.3	▲20.6	▲0.01	6.0	192.9	173.1	▲10.3	▲0.01
その他窯業・土石製品	14.6	88.4	92.1	4.2	0.01	82.6	79.1	75.6	▲4.4	▲0.02

寄与度は鉱工業に対する数値

図25 窯業・土石製品工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

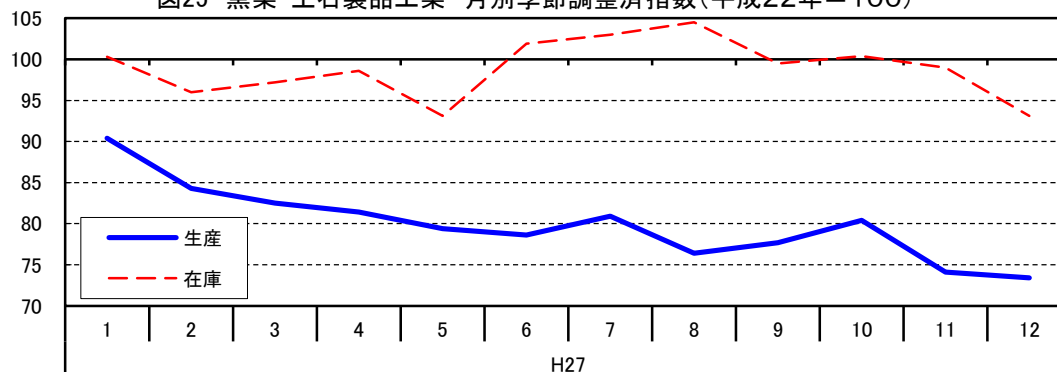
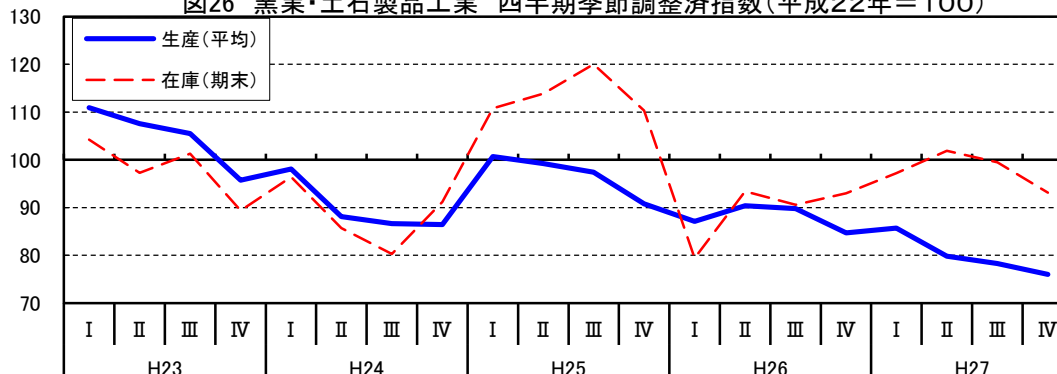


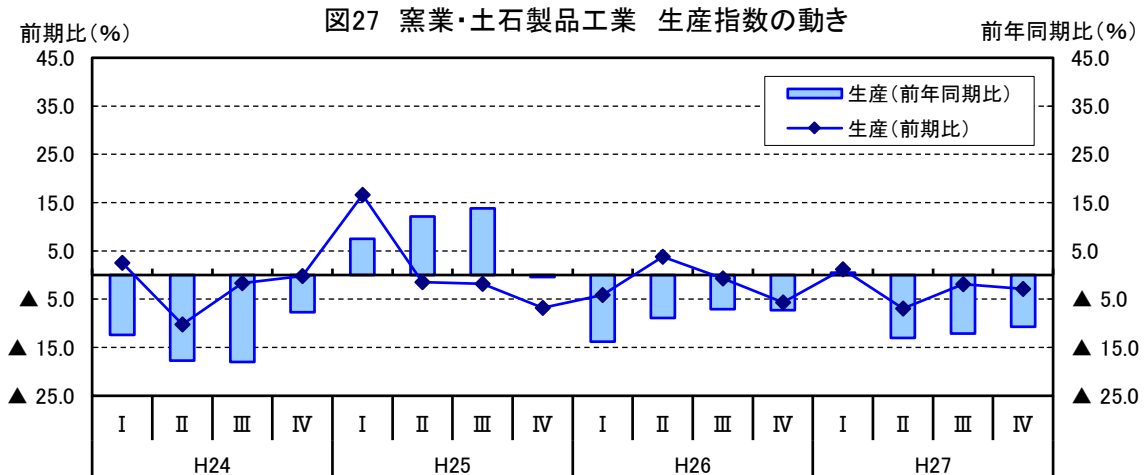
図26 窯業・土石製品工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 1.2%と上昇し、Ⅱ期▲6.9%、Ⅲ期▲1.9%、Ⅳ期▲2.9%と3期連続で低下した。

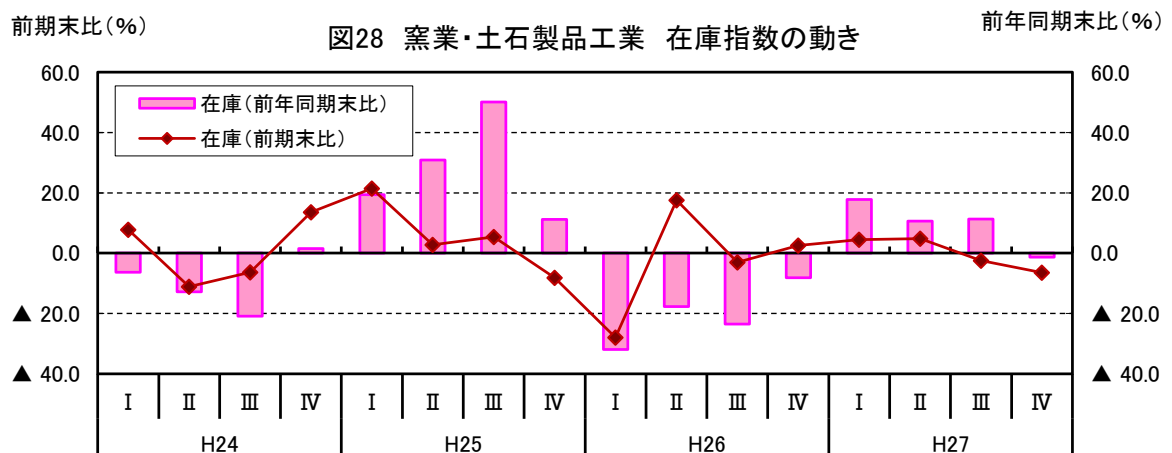
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 0.5%と上昇し、Ⅱ期▲13.0%、Ⅲ期▲12.1%、Ⅳ期▲10.7%と3期連続で前年を下回った（図 27、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 4.5%、Ⅱ期 4.8%と平成 26 年Ⅳ期以降 3 期連続で上昇し、Ⅲ期▲2.4%、Ⅳ期▲6.4%と 2 期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 17.8%、Ⅱ期 10.6%、Ⅲ期 11.3%と 3 期連続で前年を上回り、Ⅳ期▲1.3%と前年を下回った（図 28、統計表第 4 表）。



(8) 化学工業

① 概況

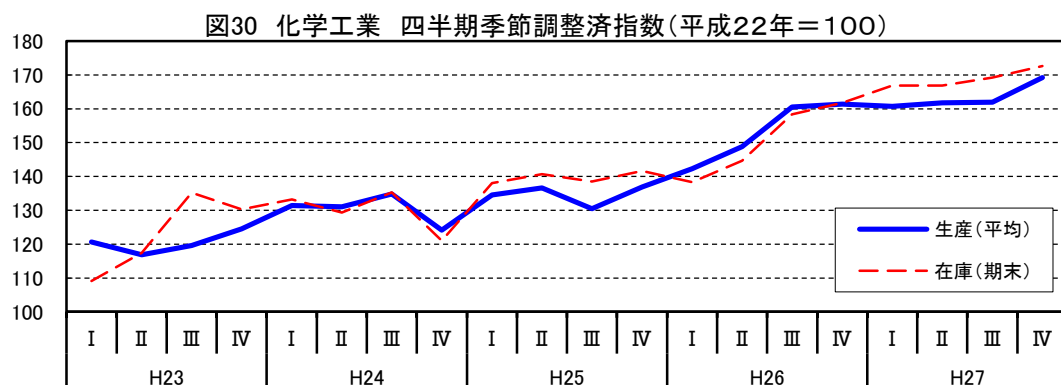
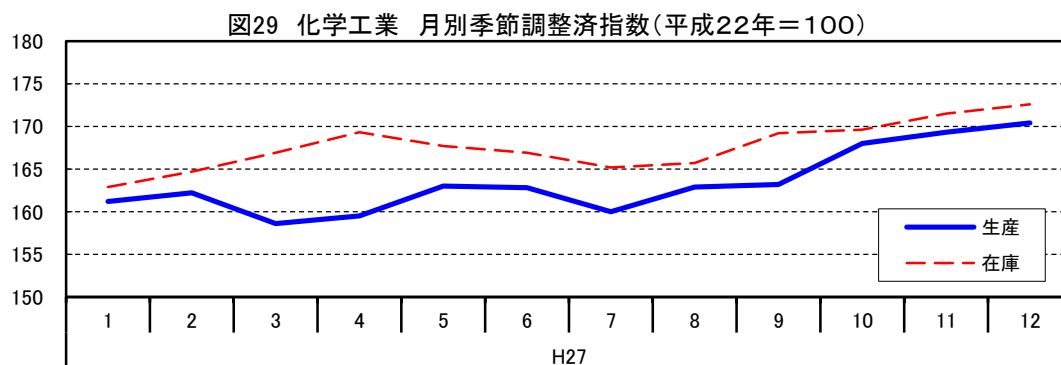
生産指数は前年比 6.9% (寄与度 1.54) の上昇で 163.7 となり、6 年連続で上昇した。これは 8 品目中、3 品目 (ソーダ工業品、接着剤、医薬品原末・原液) が減少したものの、5 品目 (化学肥料、無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、医薬品) が増加したことによる (表 8、統計表第 7 表)。

在庫指数は前年末比 7.1% (寄与度 2.43) の上昇で 168.7 となり、3 年連続で上昇した。これは 8 品目中、3 品目 (その他化学製品、接着剤、医薬品原末・原液) が減少したものの、5 品目 (化学肥料、ソーダ工業品、無機化学製品、プラスチック樹脂、医薬品) が増加したことによる (表 8、統計表第 9 表)。

表 8 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
化学工業	1495.7	153.1	163.7	6.9	1.54	2727.9	157.5	168.7	7.1	2.43
化学肥料	120.9	88.3	97.6	10.5	0.11	349.7	91.8	109.9	19.7	0.50
ソーダ工業品	19.8	99.9	96.5	▲ 3.4	▲ 0.01	11.3	78.9	79.9	1.3	0.00
無機化学製品	52.1	100.4	101.6	1.2	0.01	94.8	86.6	92.4	6.7	0.04
プラスチック樹脂	19.2	83.3	83.5	0.2	0.00	265.0	79.0	117.0	48.1	0.80
その他化学製品	144.2	88.6	94.2	6.3	0.08	341.1	100.1	96.5	▲ 3.6	▲ 0.10
接着剤	73.5	98.5	94.1	▲ 4.5	▲ 0.03	178.6	171.3	121.4	▲ 29.1	▲ 0.71
医薬品原末・原液	36.9	88.8	85.5	▲ 3.7	▲ 0.01	62.8	151.5	141.8	▲ 6.4	▲ 0.05
医薬品	1029.1	180.9	195.0	7.8	1.41	1424.6	205.8	222.9	8.3	1.94

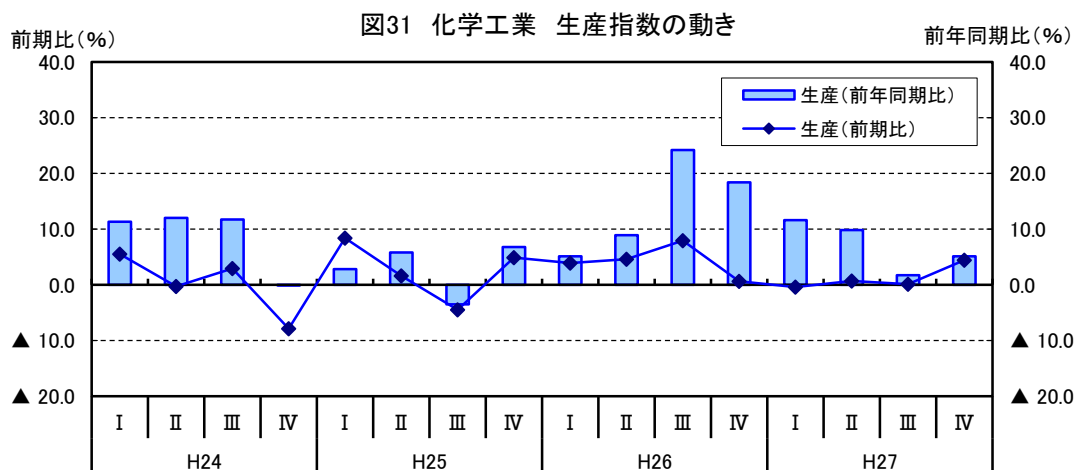
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.4%と低下し、Ⅱ期 0.7%、Ⅲ期 0.1%、Ⅳ期 4.4%と 3 期連続で上昇した。

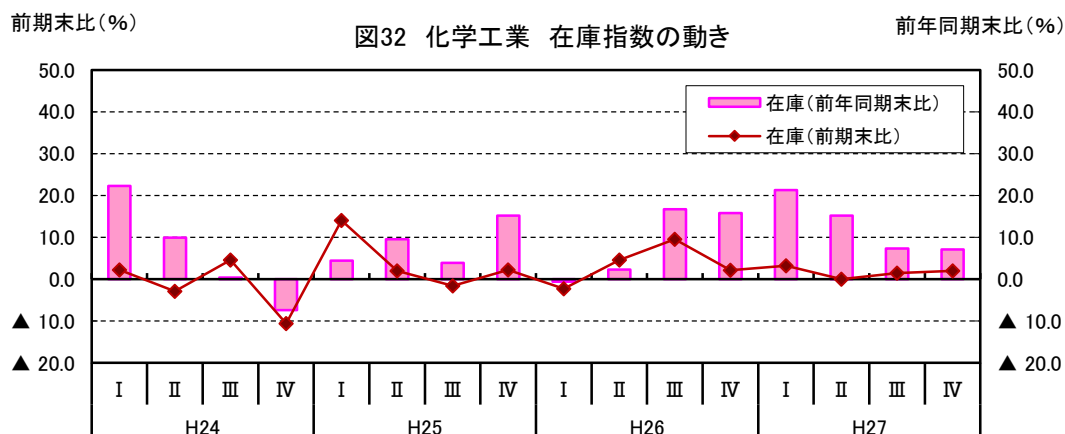
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 11.6%、Ⅱ期 9.8%、Ⅲ期 1.7%、Ⅳ期 5.1%と平成 25 年Ⅳ期以降 9 期連続で前年を上回った（図 31、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 3.2%と平成 26 年Ⅱ期以降 4 期連続で上昇し、Ⅱ期 0.0%と横ばいとなったが、Ⅲ期 1.4%、Ⅳ期 2.0%と 2 期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 21.3%、Ⅱ期 15.2%、Ⅲ期 7.3%、Ⅳ期 7.1%と平成 26 年Ⅱ期以降 7 期連続で前年を上回った（図 32、統計表第 4 表）。



(9) プラスチック製品工業

① 概況

生産指数は前年比▲2.0%（寄与度▲0.16）で99.0となり、3年ぶりに低下した。これは6品目中、3品目（容器、日用品雑貨、その他プラスチック製品）が増加したものの、3品目（フィルム・シート、機械器具部品、建材・強化製品）が減少したことによる（表9、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比2.7%（寄与度0.26）の上昇で127.5となり、2年連続で上昇した。これは6品目中、1品目（日用品雑貨）が減少したものの、5品目（フィルム・シート、機械器具部品、容器、建材・強化製品、その他プラスチック製品）が増加したことによる（表9、統計表第9表）。

表9 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
		平成22年=100					平成22年=100			
プラスチック製品工業	826.0	101.0	99.0	▲2.0	▲0.16	942.9	124.1	127.5	2.7	0.26
フィルム・シート	304.1	111.0	105.4	▲5.0	▲0.17	352.4	85.3	114.4	34.1	0.82
機械器具部品	289.4	86.2	83.3	▲3.4	▲0.08	37.8	76.4	96.4	26.2	0.06
容器	62.8	104.3	123.5	18.4	0.12	76.4	119.0	125.1	5.1	0.04
日用品雑貨	66.5	122.4	122.8	0.3	0.00	339.4	162.1	136.4	▲15.9	▲0.70
建材・強化製品	31.7	70.9	59.7	▲15.8	▲0.03	13.5	136.8	145.2	6.1	0.01
その他プラスチック製品	71.5	108.7	108.8	0.1	0.00	123.4	146.7	149.2	1.7	0.02

寄与度は鉱工業に対する数値

図33 プラスチック製品工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

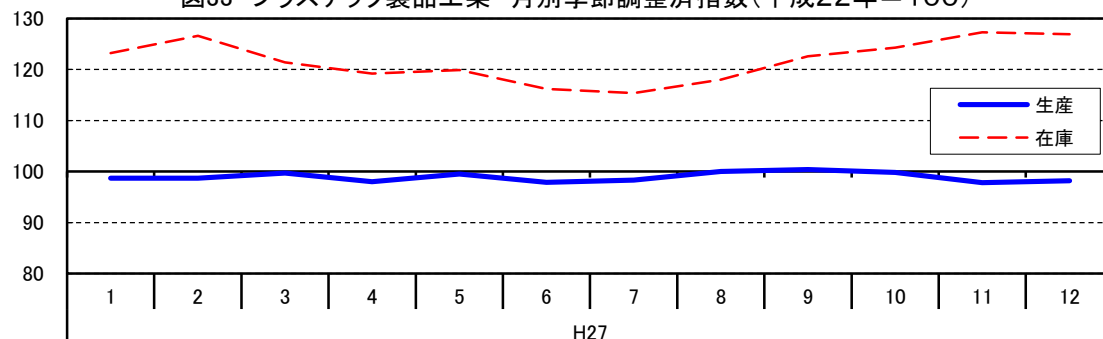
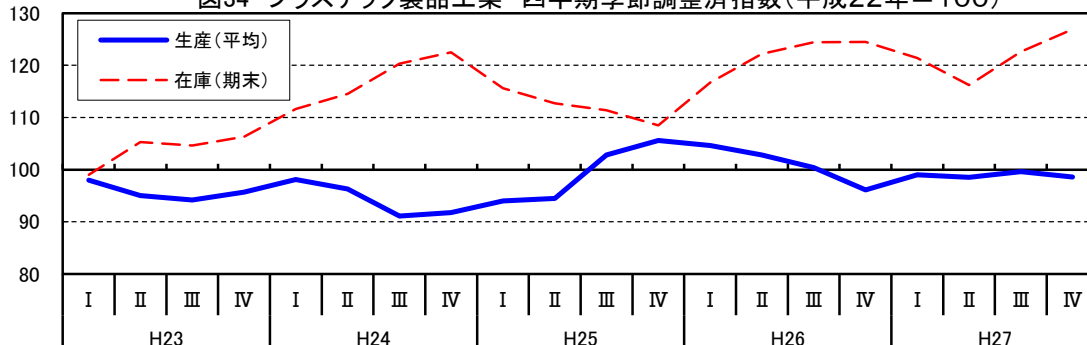


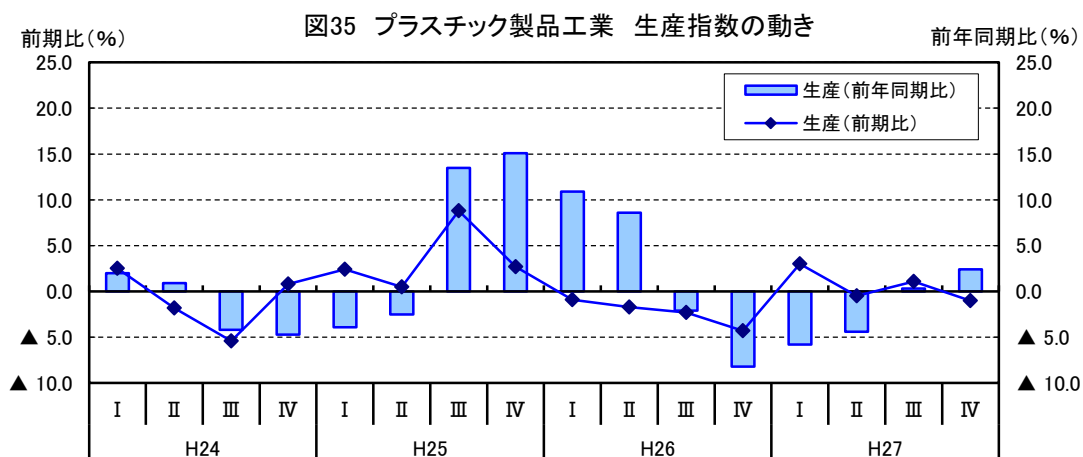
図34 プラスチック製品工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 3.0%と上昇し、Ⅱ期▲0.5%と低下したが、Ⅲ期 1.1%と上昇し、Ⅳ期▲1.0%と再び低下した。

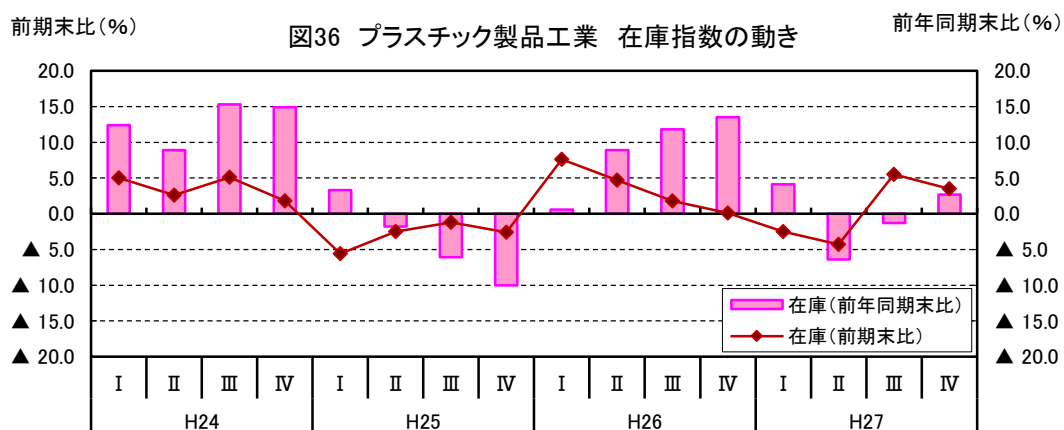
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲5.8%、Ⅱ期▲4.4%と平成 26 年Ⅲ期以降 4 期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期 0.3%、Ⅳ期 2.4%と 2 期連続で前年を上回った（図 35、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲2.5%、Ⅱ期▲4.3%と低下し、Ⅲ期 5.5%、Ⅳ期 3.5%と上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 4.1%と平成 26 年Ⅰ期以降 5 期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期▲6.4%、Ⅲ期▲1.3%と 2 期連続で前年を下回り、Ⅳ期 2.7%と再び前年を上回った。（図 36、統計表第 4 表）。



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

① 概況

生産指数は前年比▲3.0%（寄与度▲0.09）で97.8となり、3年ぶりに低下した。これは5品目中、1品目（ダンボール・箱・袋）が増加したものの、4品目（パルプ、紙、板紙、その他紙製品）が減少したことによる（表10、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲6.4%（寄与度▲0.40）で95.5となり2年ぶりに低下した。これは4品目中、2品目（板紙、ダンボール・箱・袋）が増加したものの、2品目（紙、その他紙製品）が減少したことによる（表10、統計表第9表）。

表10 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
パルプ・紙・紙加工品工業	316.9	100.8	97.8	▲ 3.0	▲ 0.09	773.9	102.0	95.5	▲ 6.4	▲ 0.40
パルプ	55.8	101.7	97.8	▲ 3.8	▲ 0.02	-	-	-	-	-
紙	102.8	93.7	89.5	▲ 4.5	▲ 0.04	530.4	94.2	83.8	▲ 11.0	▲ 0.44
板紙	30.2	110.4	109.8	▲ 0.5	▲ 0.00	120.0	111.8	128.5	14.9	0.16
ダンボール・箱・袋	105.4	105.3	107.3	1.9	0.02	56.5	92.6	96.3	4.0	0.02
その他紙製品	22.7	96.4	75.9	▲ 21.3	▲ 0.05	67.0	153.5	128.2	▲ 16.5	▲ 0.14

寄与度は鉱工業に対する数値

図37 パルプ・紙・紙加工品工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

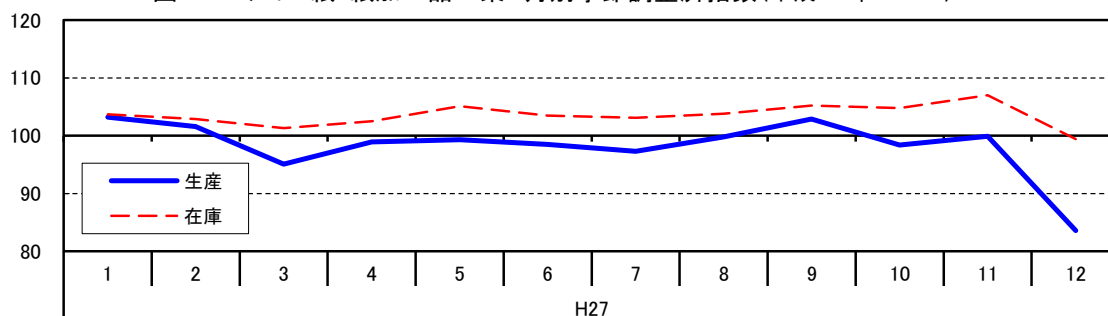
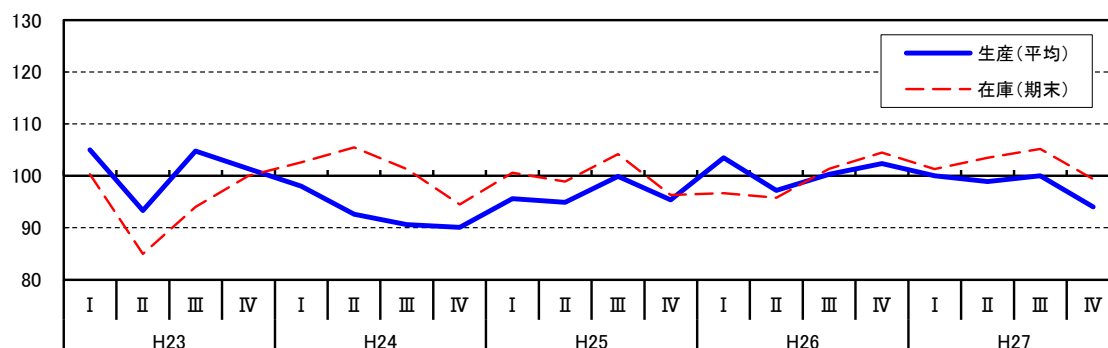


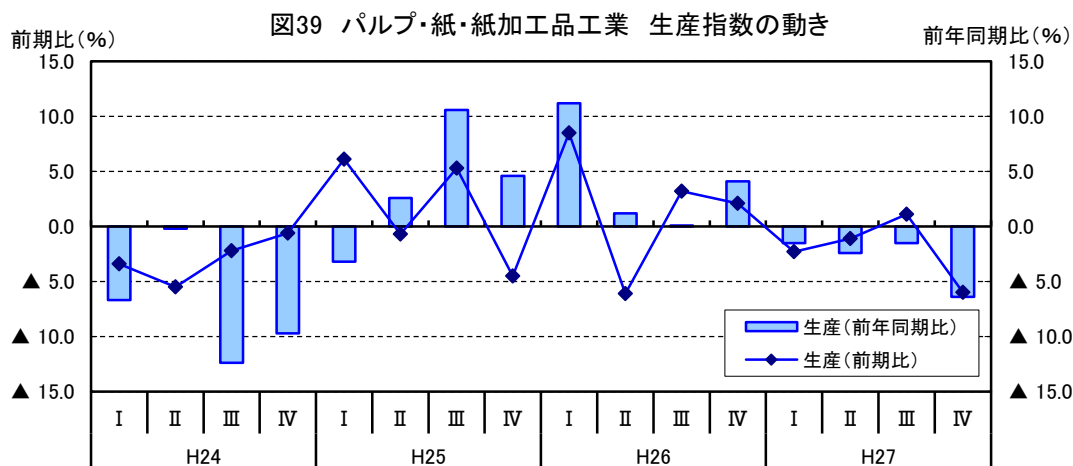
図38 パルプ・紙・紙加工品工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲2.3%、Ⅱ期▲1.1%と2期連続で低下し、Ⅲ期1.1%と上昇したが、Ⅳ期▲6.0%と再び低下した。

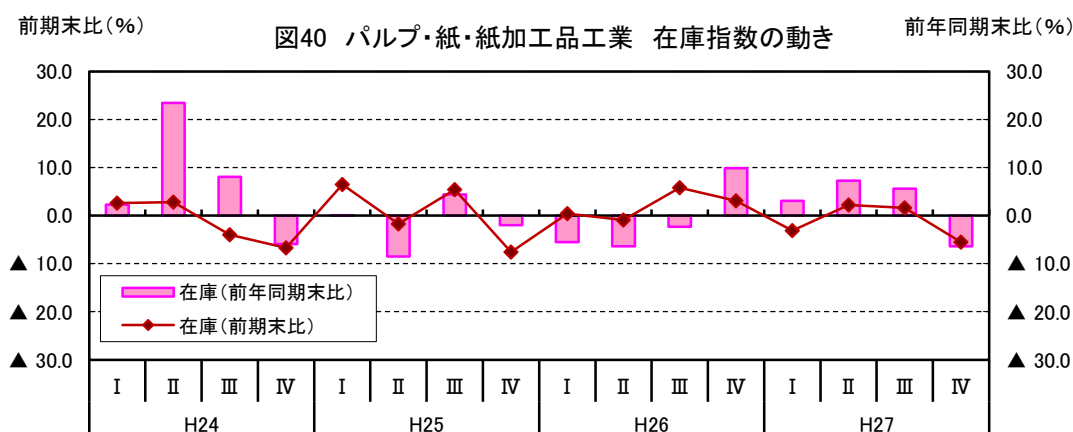
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲1.5%、Ⅱ期▲2.4%、Ⅲ期▲1.5%、Ⅳ期▲6.4%と4期連続で前年を下回った（図39、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲3.1%と低下し、Ⅱ期2.2%、Ⅲ期1.6%と2期連続で上昇したが、Ⅳ期▲5.5%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期3.1%、Ⅱ期7.3%、Ⅲ期5.6%と平成26年Ⅳ期以降4期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲6.4%と前年を下回った（図40、統計表第4表）。



(11) 繊維工業

① 概況

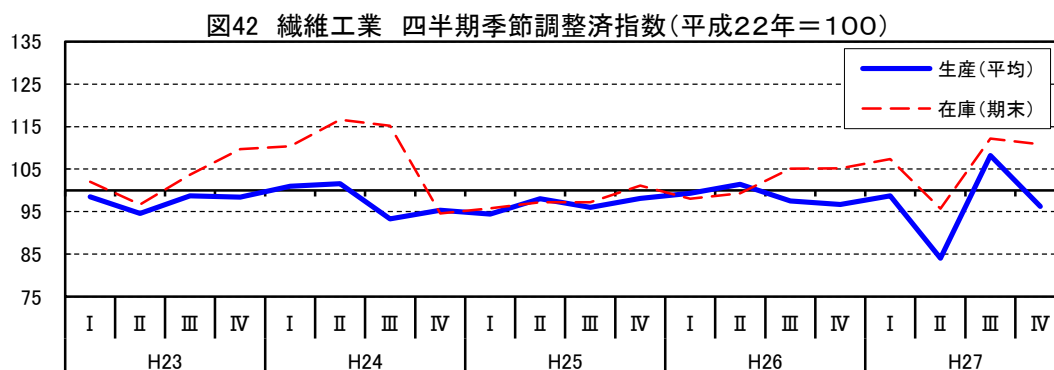
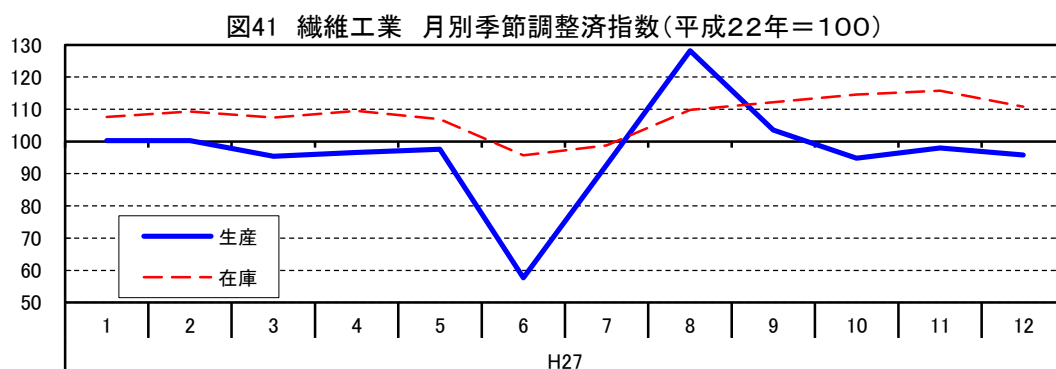
生産指数は前年比▲3.2%（寄与度▲0.08）で95.7となり、2年ぶりに低下した。これは5品目中、1品目（化繊・紡績）が増加したものの、4品目（織物、染色整理、衣類、その他繊維製品）が減少したことによる（表11、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比6.1%（寄与度0.20）の上昇で111.3となり、3年連続で上昇した。これは5品目中、2品目（織物、その他繊維製品）が減少したものの、3品目（化繊・紡績、染色整理、衣類）が増加したことによる（表11、統計表第9表）。

表11 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
繊維工業	268.7	98.9	95.7	▲3.2	▲0.08	389.0	104.9	111.3	6.1	0.20
化繊・紡績	133.8	94.8	94.9	0.1	0.00	159.0	43.6	46.9	7.6	0.04
織物	19.1	114.7	107.6	▲6.2	▲0.01	74.0	231.2	228.8	▲1.0	▲0.01
染色整理	8.2	128.3	115.5	▲10.0	▲0.01	50.5	116.8	132.0	13.0	0.06
衣類	57.0	100.2	93.1	▲7.1	▲0.04	62.0	100.2	132.0	31.7	0.16
その他繊維製品	50.6	97.4	92.9	▲4.6	▲0.02	43.5	107.1	93.4	▲12.8	▲0.05

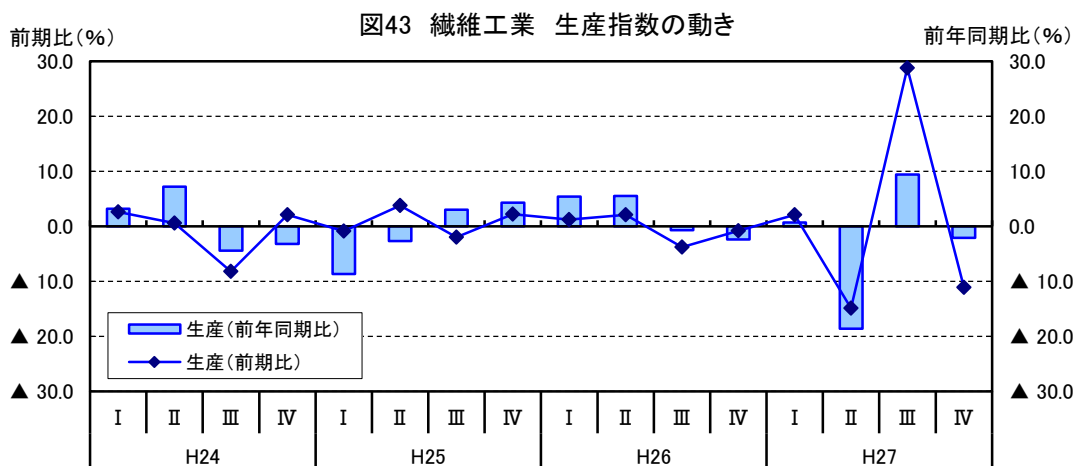
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 2.1%と上昇し、Ⅱ期▲14.9%と低下したが、Ⅲ期 28.8%と上昇し、Ⅳ期▲11.1%と再び低下した。

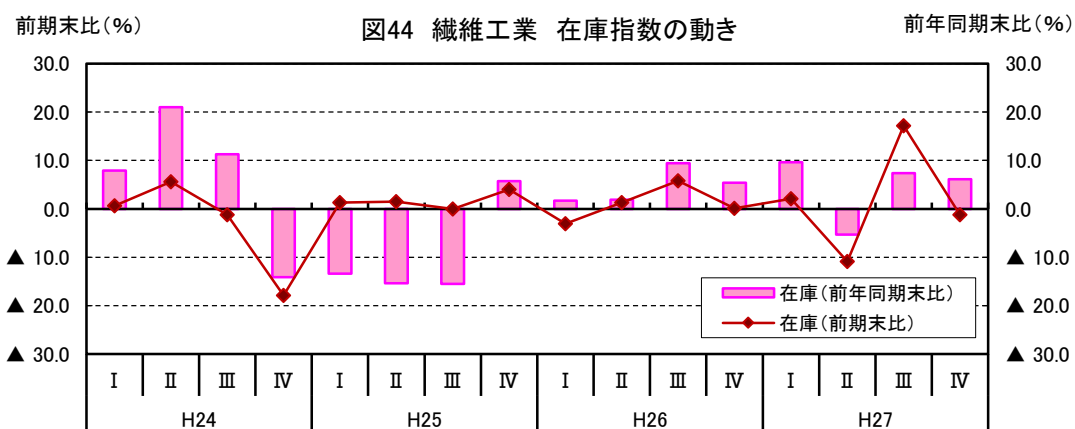
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 0.7%と前年を上回り、Ⅱ期▲18.6%と前年を下回ったが、Ⅲ期 9.4%と前年を上回り、Ⅳ期▲2.1%と再び前年を下回った（図 43、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 2.1%と平成 26 年Ⅱ期以降 4 期連続で上昇し、Ⅱ期▲10.9%と低下したが、Ⅲ期 17.2%と上昇し、Ⅳ期▲1.2%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 9.6%と平成 25 年Ⅳ期以降 6 期連続で前年を上回り、Ⅱ期▲5.3%と前年を下回ったが、Ⅲ期 7.4%、Ⅳ期 6.1%と 2 期連続で前年を上回った（図 44、統計表第 4 表）。



(12) 食料品工業

① 概況

生産指数は前年比▲2.0%（寄与度▲0.09）で110.9となり、6年ぶりに低下した。これは8品目中、3品目（畜産製品、惣菜、その他食料品）が増加したものの、5品目（冷凍調理品、乳製品、調味料、飲料、その他食料品工業製品）が減少したことによる（表12、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲5.4%（寄与度▲0.21）で72.2となり、6年連続で低下した。これは7品目中、1品目（その他食料品）が増加したものの、6品目（冷凍調理品、乳製品、調味料、畜産製品、飲料、その他食料品工業製品）が減少したことによる（表12、統計表第9表）。

表12 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
食料品工業	409.2	113.2	110.9	▲2.0	▲0.09	649.2	76.3	72.2	▲5.4	▲0.21
冷凍調理品	79.4	138.2	130.7	▲5.4	▲0.06	6.9	142.5	81.2	▲43.0	▲0.03
乳製品	35.0	103.7	95.1	▲8.3	▲0.03	30.9	96.8	87.4	▲9.7	▲0.02
調味料	24.7	79.5	75.8	▲4.7	▲0.01	47.3	99.1	96.2	▲2.9	▲0.01
畜産製品	32.2	139.4	149.9	7.5	0.03	3.8	478.1	351.2	▲26.5	▲0.04
惣菜	18.0	86.6	91.7	5.9	0.01	-	-	-	-	-
飲料	159.3	109.6	106.1	▲3.2	▲0.05	539.4	69.3	67.1	▲3.2	▲0.09
その他食料品工業製品	0.7	93.0	92.6	▲0.4	▲0.00	8.9	95.1	85.6	▲10.0	▲0.01
その他食料品	59.9	103.1	106.3	3.1	0.02	12.0	65.4	66.2	1.2	0.00

平成22年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図45 食料品工業 月別季節調整済指数(平成22年=100)

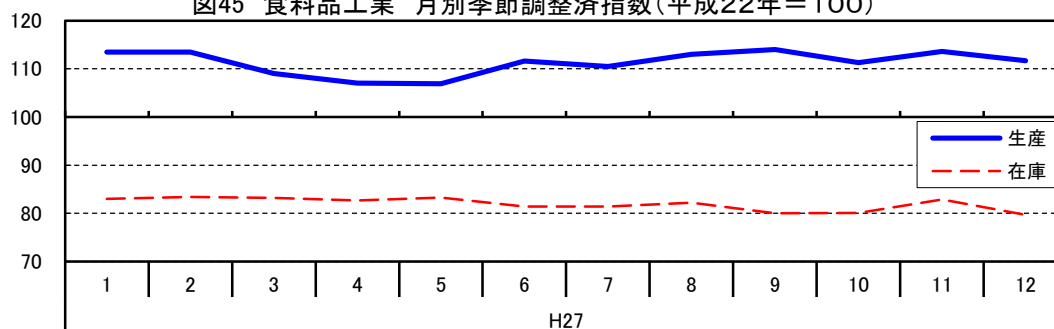
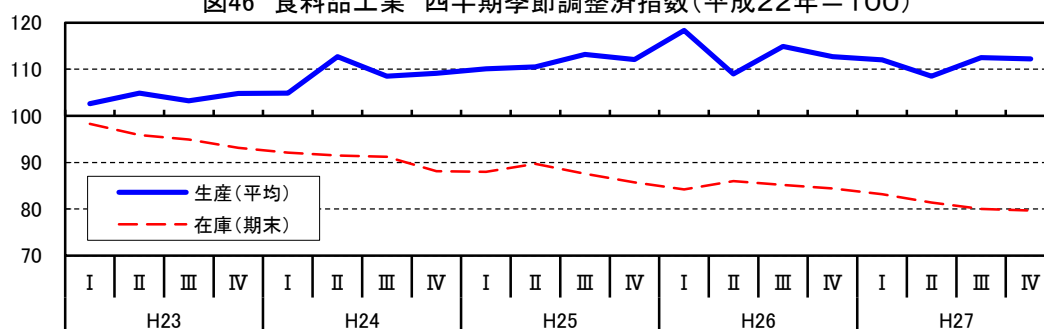


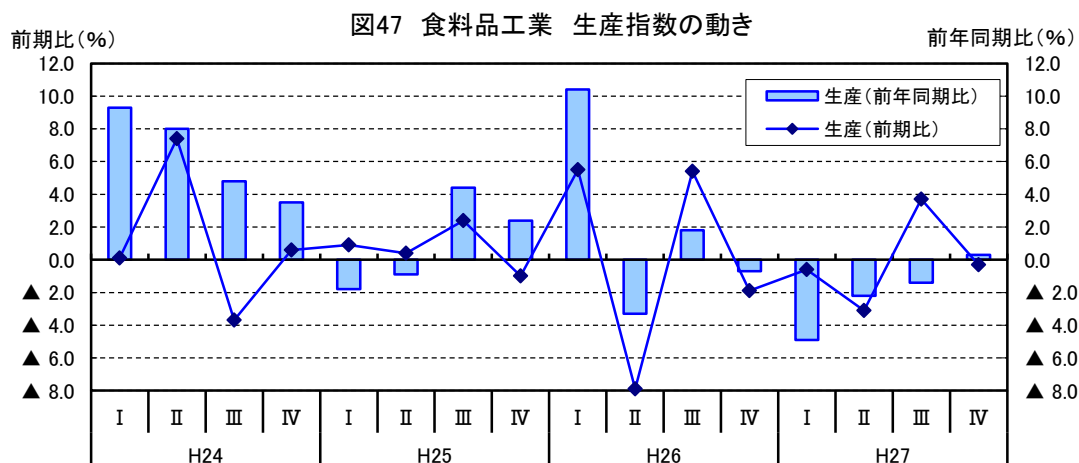
図46 食料品工業 四半期季節調整済指数(平成22年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.6%、Ⅱ期▲3.1%と平成26年Ⅳ期以降3期連続で低下し、Ⅲ期3.7%と上昇したが、Ⅳ期▲0.3%と再び低下した。

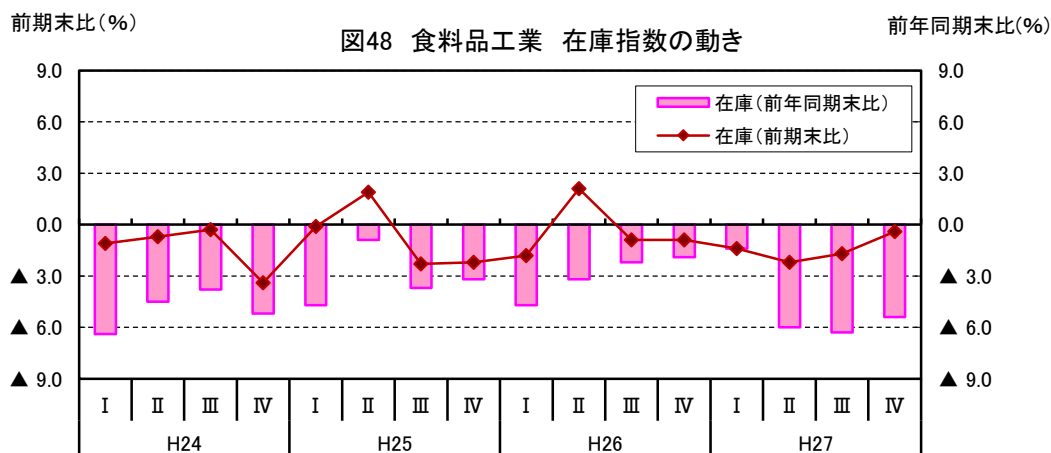
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲4.9%、Ⅱ期▲2.2%、Ⅲ期▲1.4%と平成26年Ⅳ期以降4期連続で前年を下回り、Ⅳ期0.3%と前年を上回った（図47、統計表第3表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲1.4%、Ⅱ期▲2.2%、Ⅲ期▲1.7%、Ⅳ期▲0.4%と平成26年Ⅲ期以降6期連続で低下した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲1.4%、Ⅱ期▲6.0%、Ⅲ期▲6.3%、Ⅳ期▲5.4%と平成22年Ⅱ期以降23期連続で前年を下回った（図48、統計表第4表）。



(13) その他工業

① 概況

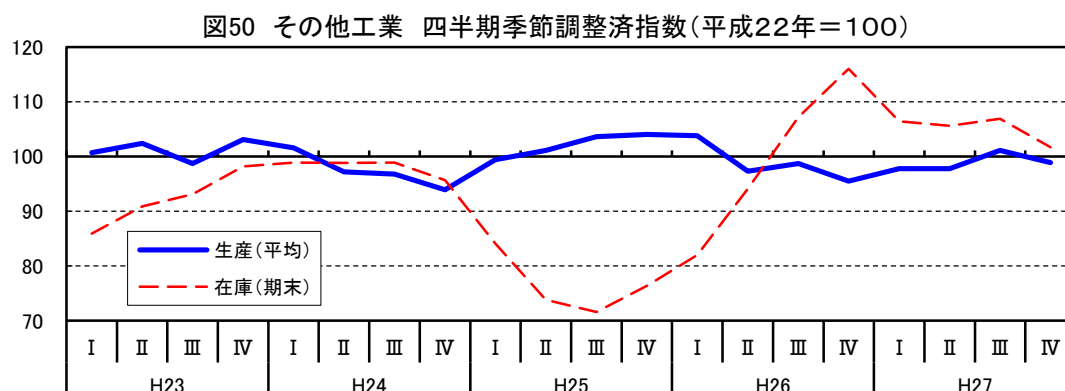
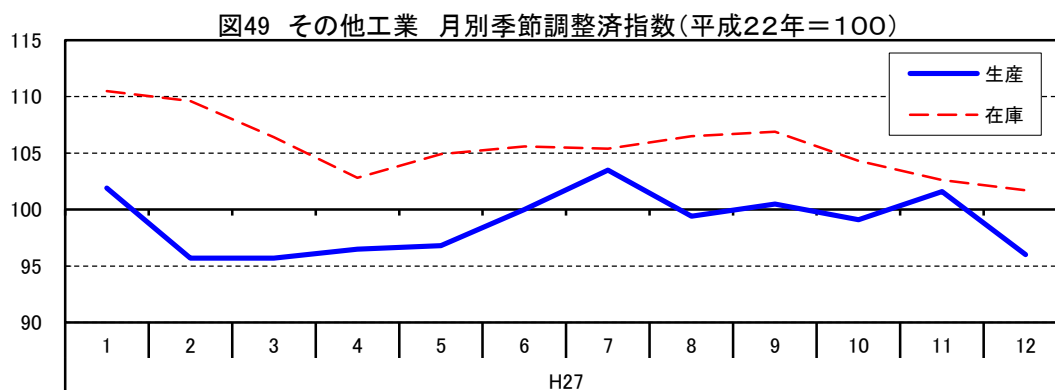
生産指数は前年比▲0.1%（寄与度▲0.00）で98.8となり、2年連続で低下した。これは4品目中、1品目（その他製品工業）が増加したものの、3品目（ゴム製品工業、印刷業、木材・木製品工業）が減少したことによる（表13、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲10.8%（寄与度▲0.15）で100.8となり、2年ぶりに低下した。これは2品目すべて（木材・木製品工業、その他製品工業）が減少したことによる（表13、統計表第9表）。

表13 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成26年	平成27年				平成26年	平成27年		
		平成22年=100								
その他工業	441.7	98.9	98.8	▲0.1	▲0.00	158.3	113.0	100.8	▲10.8	▲0.15
ゴム製品工業	64.3	113.5	111.9	▲1.4	▲0.01	-	-	-	-	-
印刷業	124.2	97.6	96.5	▲1.1	▲0.01	-	-	-	-	-
木材・木製品工業	54.1	69.1	58.7	▲15.1	▲0.05	127.4	101.3	93.5	▲7.7	▲0.08
その他製品工業	199.1	103.0	107.0	3.9	0.08	30.9	161.1	130.8	▲18.8	▲0.07

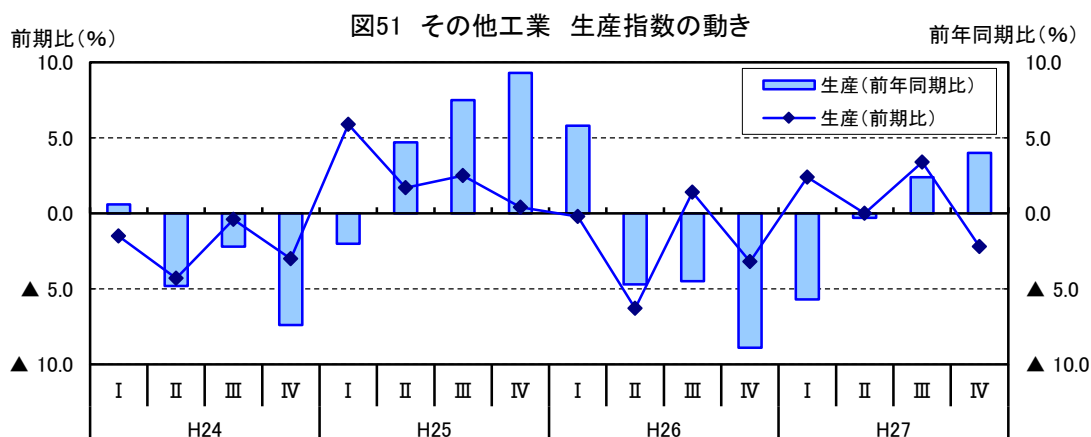
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 2.4%の上昇となり、Ⅱ期 0.0%と横ばいとなったが、Ⅲ期 3.4%と再び上昇し、Ⅳ期▲2.2%と低下した。

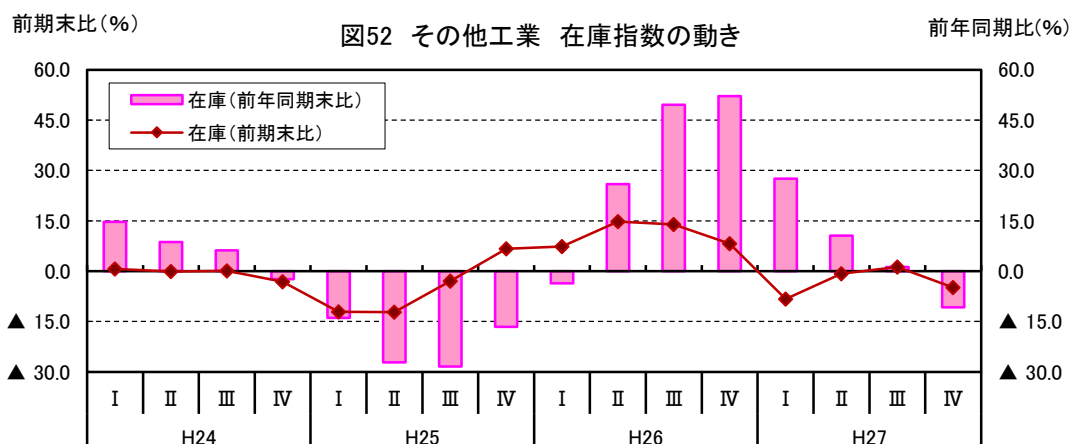
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲5.7%、Ⅱ期▲0.3%と平成 26 年Ⅱ期以降 5 期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期 2.4%、Ⅳ期 4.0%と 2 期連続で前年を上回った（図 51、統計表第 3 表）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲8.3%、Ⅱ期▲0.8%と 2 期連続で低下し、Ⅲ期 1.2%と上昇したが、Ⅳ期▲4.9%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 27.5%、Ⅱ期 10.6%、Ⅲ期 1.2%と平成 26 年Ⅱ期以降 6 期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期▲10.8%と前年を下回った（図 52、統計表第 4 表）。



3 財用途別動向

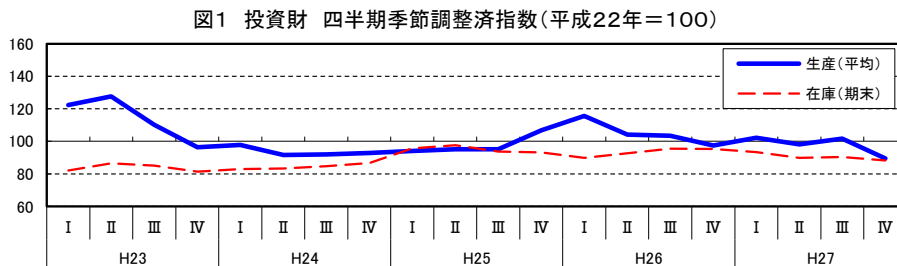
注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P15～16「業種別・財別品目一覧」を参照。

(1) 最終需要財

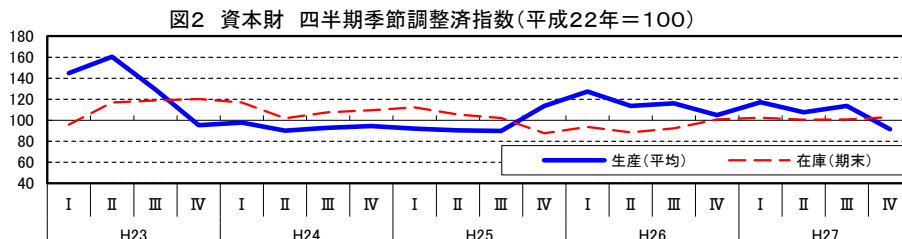
生産は前年比▲0.4%で 127.8 となり、在庫は前年末比 0.9%の上昇で 139.8 となった(統計表第 11 表・第 13 表)。

① 投資財

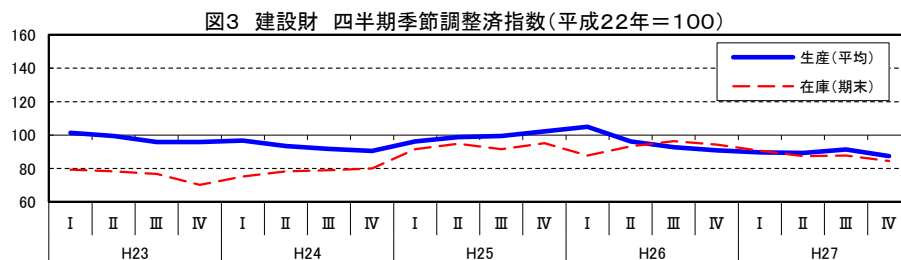
投資財全体では、生産が前年比(原指数)▲7.1%で 97.7 となり、在庫が前年末比▲6.6%で 85.8 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期 4.9%と上昇し、II 期▲4.0%と低下したが、III 期 3.7%と上昇し、IV 期▲12.1%と再び低下した。(図 1、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。



投資財のうち**資本財**は、生産が前年比▲7.5%で 107.6 となり、在庫が前年末比 2.5%の上昇で 106.0 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期は上昇し、II 期は低下したが、III 期は上昇し、IV 期は再び低下した(図 2、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

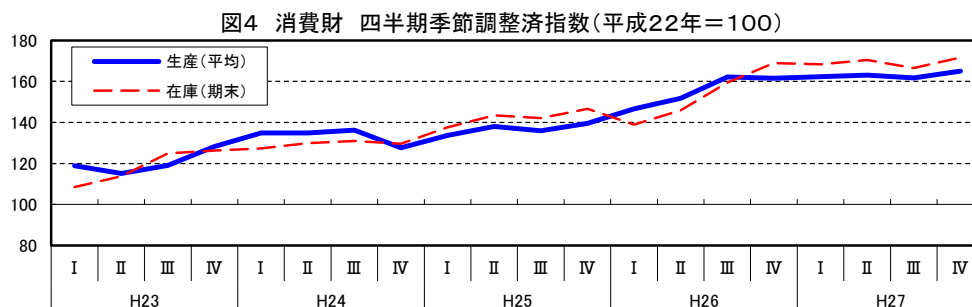


また、**建設財**は、生産が前年比▲6.9%で 89.3 となり、在庫が前年末比▲9.2%で 80.8 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、I 期、II 期と平成 26 年 II 期以降 5 期連続で低下したが、III 期は上昇し、IV 期は再び低下した(図 3、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表)。

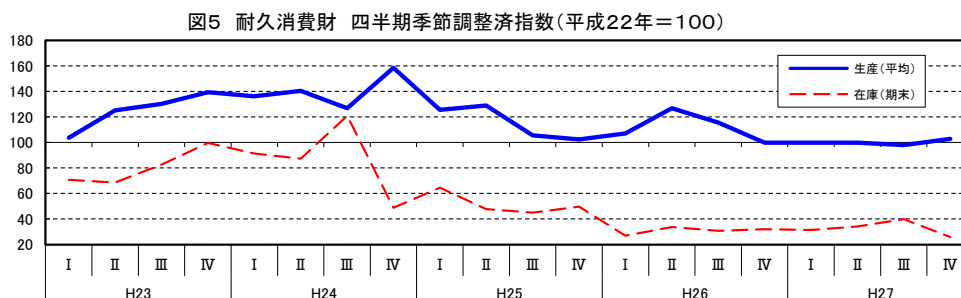


② 消費財

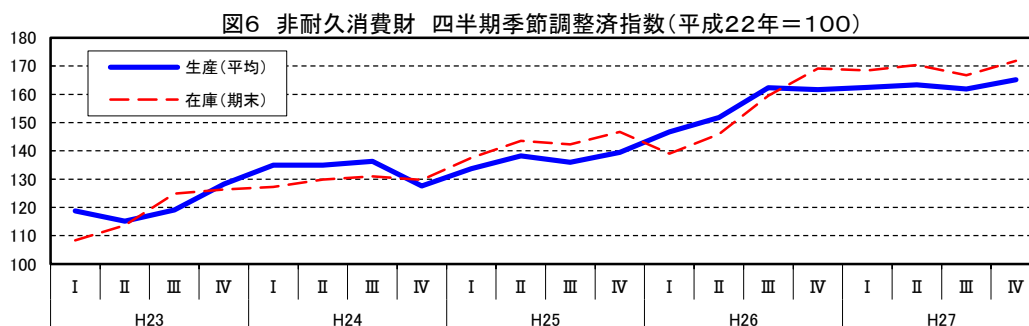
消費財全体では、生産が前年比（原指数）5.0%の上昇で163.0となり、在庫が前年末比3.0%上昇の167.5となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期0.4%、II期0.4%と2期連続で上昇したが、III期▲0.8%と低下し、IV期2.0%と再び上昇した（図4、統計表第2表・第5表・第6表）。



消費財のうち**耐久消費財**は、生産が前年比▲12.0%で99.0となり、在庫が前年末比▲26.4%で30.1となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期、II期は横ばいとなり、III期は低下し、IV期は上昇した（図5、統計表第2表・第5表・第6表）。

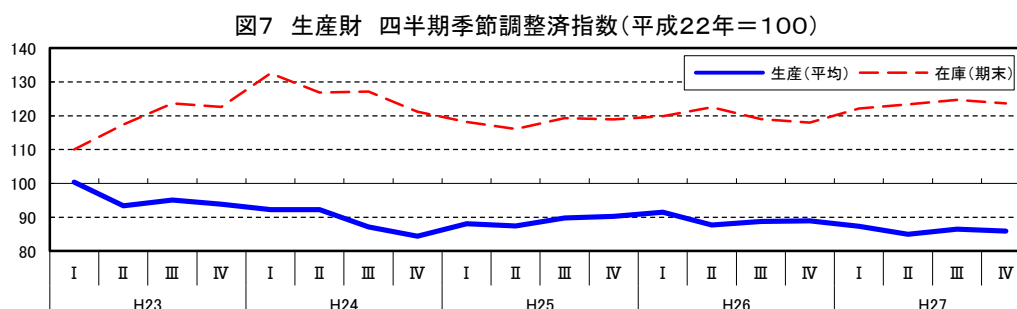


また、**非耐久消費財**は、生産が前年比5.0%の上昇で163.2となり、在庫が前年末比3.1%の上昇で167.7となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期、II期は上昇し、III期は低下したが、IV期は再び上昇した（図6、統計表第2表・第5表・第6表）。



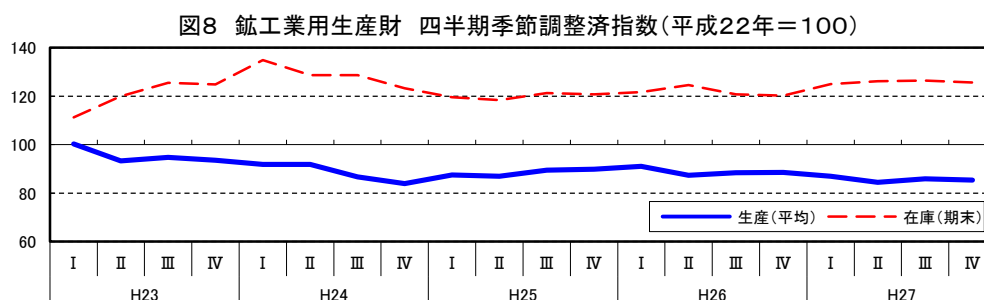
(2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比（原指数）▲3.5%で 86.1 となり、在庫が前年末比 4.2%の上昇で 121.9 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期▲1.8%、II 期▲2.7%と 2 期連続で低下したが、III 期 1.9%と上昇し、IV 期▲0.7%と再び低下した（図 7、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。



① 鉱工業用生産財

生産財のうち鉱工業用生産財は、生産が前年比▲3.6%で 85.6 となり、在庫が前年末比 3.8%の上昇で 123.7 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期、II 期は低下したが、III 期は上昇し、IV 期は再び低下した（図 8、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。



② その他用生産財

また、その他用生産財は、生産が前年比▲0.2%で 98.9 となり、在庫が前年末比 11.4%の上昇で 96.4 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期は上昇し、II 期は横ばいとなったが、III 期は上昇し、IV 期は低下した（図 9、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。

